

特 231

158

北海道青年
農業叢書
第八編

北海道に
適する

兎と其の飼ひ方

北海道農業教育研究會編

淳文書院發行



始



特 231
158



北海道農業教育研究會編

兔
と
其
の
飼
ひ
方



淳文書院發行

序

本叢書は本道農家青年子弟が自己の生業たる農業を営む傍、之に關する知識を廣め、技術、經營の向上進歩を來たさしめんが爲、晴耕雨讀の資として企圖されしものなり。

小冊子、元より專業者を誘導裨益するが如きは望外にして、専ら育英の爲に編めるものなれば、努めて平易なるを旨こしたり、然れども記述の内容に至りては、それら本道農事指導の權威者が嚴密なる指導校訂を經、若しくはその執筆になるを以て、極めて正確有益なるは言を俟たず。加ふるに本道の農業は各方面に於て府縣のそれとは著るしく趣きを異にするを以て、各編悉く本道農業の特殊性に立脚し、その實情に即することに努めたり、之本叢書存立の基礎にして、又世の要望に對する所以たり。

願はくは識者の援助を得て、本叢書が編を重ね、本道農家青年諸子の研鑽に裨益するところありしめんことを。聊か記して本叢書刊行の趣旨をなす。

昭和九年二月

淳文書院主人敬白

本道に
適する

兎と其の飼ひ方 目次

初めて兎を飼ふ人へ.....	一
一、養兎は農家の副業として適當か.....	一
二、種兎はどこから手に入れるか.....	五
三、どんな種類を選んで飼つたらよいか.....	六
四、副業としての養兎經營の仕方.....	七
養 兎 界 の 現 状.....	八
本道に飼育して安全確實な兎の種類.....	八
一、兎の品種に就いて.....	一〇
二、農家副業として本道に適する兎の品種.....	一三
い 白色種—白色日本種、ニュージ—ランド・ホワイト種	
ろ 有色種—ベルジアン種、チンチラ種	

養 兔 の 設 備 二二

一、飼育箱の作り方 三三

二、飼育箱の置場 三七

三、必要な器具 二九

飼 料 と 給 餌 法 二九

一、飼料の種類 三三

二、飼料の調理法 三四

三、給餌法と其の分量 四一

四、給餌上の注意事項 四二

蕃 殖 と 育 仔 四三

一、蕃殖の方法 四三

(一) 種兔に就いて (二) 蕃殖の時季 (三) 蕃殖の回数

(四) 兔の發情と交配の方法 (五) 牝牡配合の割合と交配數

二、妊娠期の飼養管理 四四

(一) 偽妊娠 (二) 妊娠兔の見分け方 (三) 妊娠中最も注意すべき事柄

三、分娩前後の飼養管理 四六

(一) 分娩 (二) 分娩後の仔兔の取扱

四、哺乳期の仔兔の管理 四九

(一) 巢の検査 (二) 仔兔に就いての注意 (三) 乳母兔について

五、離乳前後の飼養管理 五一

(一) 離乳の時期と方法 (二) 仔兔の收容數 (三) 仔兔の飼料

(四) 仔兔育成上の注意

一 般 成 兔 の 飼 養 管 理 五二

一、飼養管理の要諦 五三

二、毎日の日課 五四

三、飼養管理上の心得 五五

四、放飼と舍飼 五七

五、去勢と肥育 五八

兔 の 病 氣 と 治 療 法 六一

一、病氣に對する心得……………六二

二、病氣の種類と其の手當……………六三

家 兔 の 處 理……………六七

一、兔の屠殺法……………六九

二、剥皮法……………七一

三、乾皮の作り方……………七三

四、乾皮の鞣し方……………七四

兔肉の調理法・貯藏法……………八〇

附 錄

アンゴラ兔に就いて……………八四

一、アンゴラ兔に對する誤れる世評……………八五

二、アンゴラ種に就いての解説……………八七

三、アンゴラ兔の飼ひ方……………九一

レツキス兔に就いて……………九二

北海道青年農業 本道に
叢書第八編 適する 兔と其の飼ひ方

北海道農業教育研究會編

初めて兔を飼ふ人へ

一、養兔は農家の副業として適當か

兔は儲かるといふ人もあるし、又兔など飼つても世話ばかりやけて、少しも利益にならぬといふ人もある。養兔も一時の流行でやがて廢つてしまふ様に説く人もある。果して其の正體はどうかといふ事は、之から副業に兔でも飼つて見たいといふ人が、誰しも皆知りたい事柄である。

然らば果して養兎は農家の副業として適當なものであらうか。編者は前記の説がいづれも眞であるといひたい。兎が儲かるといふ人は、多年養兎の研究を積んで、飼養技術にも堪能となり、高級種の種兎を上手に繁殖させ、之を高價に販賣してゐる向で、之は相當ポロイ儲けをしてゐるのである。又世話ばかりやけて、少しも利益にならないといふ人もほんとうである。儲かる話を聞いて一儲けしようと思つて高い種兎を買入れ、碌々研究もしないで失敗ばかりしてゐる人は、利益どころか損失を重ね、一儲けしようと思つて欺かれた、こんな馬鹿臭い事はないから兎は駄目だといふ、兎は元來そんなに儲かるべき性質のものでないのに儲かると思つてやつた人は、養兎をケナすのも無理はない。養兎も流行でやがてすたるといふ人の説も、現在は多少以前とは事情が異なつてゐるが、滿更根據のない事ではない。高級種と云はれてゐるものの中には確に流行色を帯びたものが少くないのである。

しかし、兎を始めからそんなに儲かる仕事では無い事を覺悟して、實用種を農家の副業として飼育するならば、之は立派な副業の一である。野獸の毛皮が年々減少して行くのに需要は増して行くのであるから、之が代用として兎毛皮の需要は世界的である。現に我國の白色兎毛皮は年々百萬圓

乃至二百萬圓位が歐米市場に輸出され、有色兎毛皮は軍部に於て多量に購入して居り、その要求に對しその供給は遙かに低位であるから、實用養兎の流行がすたるなどは考へられぬ事である。

かくの如く需要が確であるなら、大いに養兎業が起り專業者が續出しさうであるのに、さういふ事を聞かぬのはどういふ譯かといふ反問があるかも知れない。しかし實用的な兎の毛皮は一枚六十錢か八十錢、高くも一圓を越えないので、若しも飼料を購入し、人を雇つて千頭も二千頭も飼育することになると飼料に經費がかゝつたり、肉の需要が之に伴はない爲とても引合はなくて經營が成立たないのである。

然るに之を農家で副業的に三―四十頭の範圍で飼育すると、飼料費も勞力も自給出来るから十分引合つて行くのである、だから養兎は副業としてよいものであると言ふことになるのである。假に三十枚を一枚八十錢に賣つても一年面倒を見て僅かに二十四圓と勘定し馬鹿臭いと考へる人があつたら、それは一を知つて二を知らぬものである。

1. 副業といふものは元來大利を目的とせず、勞力の配合を適當にし、種々合して本業を助け収益を増すのが目的で、大利を博するやうなものは副業ではない。

2. 養兎の二十四圓の収入は、他の大きい資本を下した仕事でやつと一―二割にしか利益にならぬものに比較すれば、殆ど資本がかゝらぬ上、労力は餘力であり、且肉や堆肥もとれるので二百圓以上の粗収入のある仕事にも匹敵するといへる。
3. 其の僅か二十四圓といふ金も、決して手を空しうして得られぬもので、場合によると之だけの金で他人に口惜しい頭を下ねばならぬことも人生にはあるのである。
4. 兎毛皮だけ二十四圓でも、その肉によつて自家食料をどれだけ自給してゐるか分からない。又此の肉も販賣し得れば更に價を生ずるのである。
5. 賣物とならない兎毛皮を鞣して、之を自家用の防寒具に應用するなら、大いに家計費を補助することになる。
6. 更に糞尿にはボルドウ合劑と同様な成分を含んで良い堆肥の材料となり、金肥を節約することが出来る。
7. 兎角殺風景になり勝な農村に、養兎は一つの濕ひを興へる點景となり、趣味を増す。かういふ利益があるから之は農村の立派な副業の一つとして近來農林省でも道廳でも力癩を

入れ積極的獎勵をする事になつて來た、故に讀者は安心して之に着手せられてよいのである。

二、種兎はどこから手に入れるか

養兎を始めるとなると、先づ最初一番の種兎を要する。之は近來各地で養兎が行はれてゐるので、個人から個人に分譲を受けることは容易である。しかし、成るべく種兎は優良なもので無くてはならないから、信用ある種兎場から割合純粹なものを手に入れる様にするがよい。しかし奸商も随分多いから用心が大切である。種兎といつても實用種は元來廉いものであるから、俗に高級種兎などといふもののやうに高價なものではない。

眞駒内種畜場でも、生後二ヶ月半位のを一番三圓位で拂下てゐるので、その拂下を受ければ一番確である。拂下を受たいものは種類、番數を明かに記して、種畜場長宛てに願書を出して置けば生産次第願書提出順により許可が與へられ、その際代金送附期日も示されるから、夫々代金その他の手續きをすればよい。此の際拂下人が種畜場に出頭して直接受取ることが出来ない場合には、運送店を代理人として委任するがよい。荷造り、運賃を先拂で運送店が取扱つて呉る、費用は荷造

が一番五十錢位、外に運賃と運送店の扱ひ料とを拂へば、居乍らにして拂下を受けることが出来る。願書の書式は別に定まつてゐない。近時拂下出願人が多いから、願書を出して許可を得るまで相當長い期間待たねばならぬが、その代り間違ひのないものが手に入る。それで願書は一日も早く出して置いた方がよい。

三、どんな種類を選んで飼つたらよいか

始めて養兎を試みようといふ人が、儲かることを夢みて高價なものに手を出すなどは大禁物である。始めは實用的な兎を飼つて経験も積み、それから研究もしたり、本も讀んだりして、それから幾年かの後趣味として珍らしい種類も一番手に入れてやつて見ようといふ順序で行かなければならぬ。所謂高級種と俗稱されてゐるものは身體も弱く、蕃殖力も強大でないし、随分手数もかゝるので、農家の副業には適しないし、又今は中々純粹種は勿論、之に近いものさへ手にはいりにくい状態にあり、従つて奸商もその間に出没する有様であるから、もう少し手を出さないで様子を見た方が安全である。

兎の品種は後に記してある様に、非常に澤山ある。その中で本道農家の副業として最も安全であり、適當してゐるのは、白色種では日本白色種、ニュージーランド、ホワイト種の二種、有色種ではベルヂアン種とチンチラ種の二種である。此の四種の中なら間違ひない。眞駒内種畜場で主に拂下してゐるのも之であるし、道廳でも之を奨励してゐる。アングラ種も、都會附近の努力と時間の充分にある人だけには勧めてゐるが、農家の副業としては、もつと種兎の値も下り、飼ひ方も上手になつてからなら兎も角、現在では先づ適當してゐないと言つた方が誤りがないと思ふ。それで本書に於てはアングラ種とレッキス種の二種を附録として取扱つて置いた。他の品種は最近價格も高くはなくなつたが、素人としては先づ手を出さないことが安全である。

四、副業としての養兎經營の仕方

先づ初めての人なら、大きくて丈夫で毛質がよく飼ひ易い白色日本種（白色改良種ともいふ）といふのを牝二頭牡一頭を種兎として購入する。そして二月頃から七月頃まで蕃殖させると、その人の技術によつて之が二十頭乃至五十頭に殖える。農家としては、之位の頭數の飼育が適當してゐる

此の兎を十一月と十二月とに分けて處分し、種兎だけ、或は蕃殖した中から最もよいものを牝二頭、牡一頭翌年の種兎として殘し、翌年七月ころまでに又二十頭乃至五十頭に蕃殖させる。之を三年位繰返すのである。かうすると年々利益を収め經驗も積んで來るので、之を土臺として色々研究も重ねて行く事が出來、珍らしい種類も試験的に扱つて見るといふ事が、左程危険ではなくなつて來るのである。かういふ經營の仕方が最もよいと思はれる。

養兎界の現状

一、本道の現状

本道の養兎事業は概して年々發達の道程を辿つて來たが、近時軍需品として國內の需要が非常に増加し、一方輸出も好轉して來たので今後益々進展の傾向を示してゐる。最近の道廳の調査によると、全道飼養戸數は約九千戸、頭數は約五萬五千で、十頭未滿の副業飼養者が約八千四百戸、五十

頭以上飼養のもの九戸、その中間約六百戸で、飼養戸數の大部分が小規模經營である、之は頗る堅實性を帯びてゐるものと言ふ事が出來るのであつて、先づ現在迄は手堅く試験時代といふべきであつた。

北海道廳に於ては此の狀勢に鑑み、いよく積極的に養兎事業獎勵に乗りだし、今回五ヶ年計畫を以てその徹底を期し、各市支應管下に獎勵地區を設置し、完成年度には百五十地區、三萬戸、三十九萬頭に増殖するやう計畫が樹てられ實行に移ることになつた。

二、我が國の現状

昭和六年六月末現在、農林省調査によると道府縣兎飼養戸數十頭未滿約三十九萬六千戸十頭以上五十頭未滿約三萬戸、五十頭以上約二千戸、計約四十二萬八千六百戸、此の頭數成兎約八十八萬六千頭、仔兎約百六萬六千頭、計約百九十五萬二千頭となつて居る。而して之を昭和元年末に比較すると、約五ヶ年間に飼養戸數に於て二割六分、總頭數に於て四割一分の増加を見てゐる。農林省に於ても之が増殖獎勵の計畫であるので、今後は一層の増加率を見せるであらう。

而して此の内容は白色短毛種が最も多く、兎毛皮の輸出が主なる目的で飼養され、生産される兎毛皮の約八割までは輸出である。仕向地は英米で、特に米國へ最も多く、輸出量の六一八割を占める。而して本邦産兎毛皮は米國市場に於てその格付が佛、英、ニュージーランド産よりも著るしく高價である。然るに年生産は僅かに二百萬頭で、佛國或はベルギー等に比して著るしい遜色のあるのは遺憾である。

因に最近米國輸入兎毛皮はニューヨークでは全部で約一億枚、内、濠洲から約五千萬枚、ベルギーから二千萬枚、佛國から約一千万枚といふ状況であるさうである。

本道に飼育して安全確實な兎の種類

一、兎の品質に就いて

兎の種類は極めて多い。而して既に述べた如く、どんな兎を飼育すべきかといふことは各々特長

があつて、一長一短があり、且つ種々地方的の事情があるので、一概に言ふことは出来ない。それで諸君は先づ手をつけられる始めは、道産又は種畜場で副業養兎として奨励されてゐるものを飼育するのがよいと考へられる、しかし後々技術の進んだ 曉には決してそれのみ飼育するのがよいとも言はれないので、先づ一わたり兎の品種を廣汎に亘つて記して置いて見よう。

兎の品種を分類する仕方も色々あつて、どれがよいとも言はれない。最も便宜なのは用途による分類であらうが肉用種であつても毛皮の利用はもとより出来る、反對に毛皮用のものゝ肉も佳良であるといふ具合で品種によつてはどれに入れてよいか迷ふものもある。

今東京帝國大學助教衣川義雄氏の近著『最新養兎法』に従つて、兎の品種名を次に擧げて見ると。

い、肉用種

- 一、フレミツシユ・ヂヤイアント種
 - 二、ノルマンディ・ヂヤイアント種
 - 三、ベルジアンヘー
 - ア四、ジャパニース種
 - 五、ダツチ(肉用)或はブラバンソン種
 - 六、イングリツシユ種
- ろ、兼用種

- 一、銀色・シヤムバーニユ種 (佛蘭西銀色種)
 - 二、ニュージーランド・レッド種
 - 三、ニュージーランド・ホワイト種
 - 四、アメリカン・ホワイ種
 - 五、日本白色種 (改良白色種)
- は、毛皮用種

- 一、チンチラ種
- 二、スカールレル種
- 三、セーブル種
- 四、シルバー・フォックス種或はシルバ
- 一・マーテン種
- 五、ベベレン種
- 六、ハバナ種
- 七、ライラック種
- 八、ビーバー種
- 九、チフォックス種
- 十、シルバー種
- 十一、黒色サイベリアン種
- 十二、タン種
- 十三、其他の品種 (1. イムヒーリアル・ブルー種 2. ウインナ種 3. セントニコライス藍色種 4. テルモンド白色種 5. ワンテ白色種 6. グラダ種 7. チューリンゲル種 8. グリスパール・テヘル種 9. スモーク・メイジ種)
- 十四、レッキス類 (短毛種) 1. カスター・レッキス種 2. チンチラ・レッキス種或はチン・レッキス種 3. ハバナ・レッキス種或はメトリア・レッキス種 4. ブルー・レッキス種 5. オーバル・レッキス種 6. リンクス・レッキス種 7. アラスカ・レッキス種或はブラック・レッキス種 8. アイミン・レッキス種或はホワイト・レッキス種 9. シンナモン・レッキス種 10. イエロー・レッキス種

- ス種 II ライラック・レッキス種 12 スカールレル・レッキス種 13 セーブル・レッキス種
 - 14 ステイル・グレー・レッキス種 15 ステイル・ブルー・レッキス種
- に、毛用種
- 一、アングラ種 (白色・黒色・藍色・朽葉色の四種) (佛蘭西系と英吉利系)
 - 二、サイベリアン種

- ほ、愛翫用種
- 一、ロップ・イーア種
- 二、ボーリツシユ種
- 三、ヒマラヤン種
- 四、ラインランダー種
- 五、ダツチ種

以上の如く多種多様を極めてゐるが最近はこの外にも新しいものが作出され此の叢書のやうな小冊子では全部を解説するページの餘裕が無いし又その必要もないので、本道の事情を考へ農家副業として最も重要であり安全であると認められてゐるもののみについて解説を加へることにする。

二、農家副業として本道に適する兎の品種

い、白色種

白色種は主として輸出を目當てに飼養されるもので、農家副業としては白色日本種とニュージー

ランド・ホワイトの二種が確實安全である。

白色日本種（改良白色種）

1. 來歴 Ⅱ 我が國の在來種に明治初期の養兔流行時代に輸入された種々の外國兔種が交配された雜種である。その交配種兔は今日明らかでは無いが、初期に於ける不純さが歳と共にその度を減じて、今日は凡そ大中小の三様に區別されるゝことが出来る様になつて來た。しかし此の名稱は範圍の廣いもので、その内容に色々のものが含まれてゐるのである。所謂、メリケン種やイタリアン種と稱するものは、此の中の一種である。

2. 特徴 Ⅱ 日本白色種は優良な外國産白色兔種、例へば次項のニュージールランド・ホワイト種に比べると、小型のものはさうでもないが、大型のものは被毛が稍粗剛であり、太くて長い差毛が多いのが缺點である。尙、其の内種によつて夫々多大の相異があり、イタリアン種とメリケン種とは耳形や體格、並に毛質等が異なり、またフレミッシュ・チャイアントの系統を引いたものとは可成り大きな違ひがあるので一概には言へぬが、一般に耳形が大型で、就中メリケン種は一名耳長

とも言はれてゐる位である。耳は直立したものもあり、垂れたものもある。體重は小型五―七百匁中型八百匁―一貫二百匁であるが、大型のものは一貫五百匁に達するものもある。大型のものでないと、利用價値が小であると考へるものがあるが、中型のもので差支へなく、大型のものは種々缺點もあるので、本道で奨勵されてゐるものは、寧ろ中型種のものである。眼はいづれも紅色、爪は淡紅、牝は多く咽喉に垂れ肉を有してゐる。

3. 性状 Ⅱ 性質は温順で、體質も概して強健であり、我が國の風土に適してゐるが、中には近親繁殖の弊害を受けて虚弱に陥つた系統もあるから注意を要する。しかし、飼料の如きは粗雜なものでよく、且つ粗放な取扱ひにも堪へるので頗る飼ひ易いから、農村の副業養兔として廣く普及されてゐる。普通繁殖力も強く、年五―六回分娩し、一回に六頭位も産む、又育仔にも巧であるから、アングラヤレックス類等の珍重されるものの假母（乳母）兔として用ひられる。

4. 用途 Ⅱ 本種は兼用種であつて、肉量が割合豊富であり、廢棄部も少く、其質も又佳良であつて肉用としても用ひられるが、主として毛皮が利用され、而も國內に於ける需要よりも、多くは乾皮として輸出され、染色して野獸毛皮の模造品に供される。即ち本邦から米國に對し毎年百萬枚以

上も輸出されて居り、本道産や東北産の物は彼の市場に於る格付が常に上位を占めてゐる。其他英國佛國へも相當出て居り、全體では二百萬枚にも及ぶ勢ひであるから、本種の需要は恒久的と言つてよい。唯次項のニュージールランド・ホワイト等と比べると未だ缺點が多いから、之等優良白色種の血液を以て改良し、毛質を稍短く繊細にし、體軀を一層充實せしめる要があると言はれてゐる。

ニュージールランド・ホワイト種

1. 來歴 本種は近年米國でニュージールランド・レッド種から作り出して固定した新しい品種で白色巨大種であるホワイト・フレミツシユ・チャイアント種と共に、肉用種として定評がある米國産のベルチアン種の血を享けたもので、實益家兎として頗る優秀なものである、それで本邦の白色在來種が輸出用として遜色があるのを改良し、又は之に代つて米國その他への輸出用品種とする爲に農林省畜産試験場で、本種を數次輸入して頒布に努めてゐるものであつて、本道では眞駒内種畜場に於て之が種兎を拂下してゐる。

2. 特徴 我が國在來の白色種に比べると毛が密生して毛質が勝れて居り、全身稍幅廣く緊り體

軀は稍短く豐圓な感がある。頭部は圓く充實し、牝には咽喉に垂れ肉がある。體重は標準では牡一貫乃至一貫百匁、牝一貫二百匁位とせられてゐる。然し本邦輸入のものは前記の目方より以下のものが多い、毛質は繊細で光澤があり、柔かで密生してゐる。上被毛(厚毛又は粗毛)の長さは約一寸下被毛(細毛)は六―七分。全身一様に純白色で褐色或は黄色を少しも帯びてゐない。耳は適度に厚く直立し長さは長い方ではなく四寸餘ある。眼は紅色で、爪は白色か又は淡紅色である。

3. 性状 強健溫和で人によく馴れ管理に骨が折れない。育仔も上手で蕃殖は年四―五回分娩、一回六―七頭以上である。仔は健康で發育が速く頗る飼ひ易い。

4. 用途 兼用種であつて肉味が佳良であるから、肉用にも用ひられるが、毛質が柔かく且つ織美である爲に、種々の色に染めて貴重高級な野獸毛皮の模造品に用ひられ、甚だ需要が多いので、經濟上安定の地位を占めた優良な實用種である、近時本邦白色種兎と交配し、之を改良する爲にも用ひられてゐる。

(註) 本種は成立がまだ左程古くないので、往々長毛なものが出来る。これは改良の途上にあるものを用ひた關係からである。

ろ、有色種

有色種の外國へ輸出される數量は僅少である。之は主として國內向きで、しかも大部分は軍部の買上げに應ずる爲に、増殖が奨励されてゐるのである。道廳ではベルジアン種とチンチラ種の二種を奨励品種としてゐる。眞駒内種畜場に於ける種兎拂下も、有色種では此の二種を主としてゐる故に、茲でもそれを解説するに止めて置く。

ベルチアン種（ベルチアン・ヘア種）

1. 來歴 原産地は明らかでないが、現在見るが如きものは英國で改良固定されたものである。元來は肉用種であるが、英國に於ては共進會出品用として發達し、初心者で容易に逸品を作出し得る爲有名である。従つて愛畜種中の實用種と稱され、絶えず流行してゐるさうである。
2. 特徴 背、頭、耳、脚等總て長く、野兎に似た特徴がある。毛は一般に短くて織美であり、赤褐色の見るからに氣持のよい毛色である。背は稍彎曲し腰の所が氣持良く豐圓で、尾は眞直ぐで

あり、一見輕快の感がある。眼は赤栗色で大きく、且つ活氣を帯びてゐる。耳の長さは相當で五寸乃至六寸位はある。體重は英國系では牡で九百匁位、牝は七―八百匁位が普通である。しかし米國系は一貫乃至一貫二百匁位が普通である。一般に米國系のもは色は劣るが大型である。

3. 性状 早熟であつて早く肥る、五ヶ月頃になると他の種類と比較にならぬ位の生長を示し、四百匁乃至五百匁位には樂に達する。性質は英國系は鋭敏活潑で、米國系のもは稍鈍重である。
4. 利用 本種は肉用種に分類する人もある位であるから、勿論肉は美味である。特に本種とフレミツシユ・チャイアント種との雜種はその肉味がその兩親の熟れよりも優れてゐる。しかし、その毛皮も優良であつて、陸軍の購入兎毛皮は主として本種と次のチンチラ種であるから、本種は兼用種といつてよいのであらう。

チンチラ種

1. 來歴 本種はチンチラ種の起原については明らかでない。千九百十三年佛國の共進會に出品された事と、千九百十七年に英國に、千九百十九年に米國に輸入されたことは確實であつて、其の後の改

良普及の経路は明らかであるが、その成立については諸説があつて定かでない。

2. 特徴—本種の特徴の第一としては、その被毛が南米産の野獸チンチラ・ラニゲラに酷似してゐることである、此野獸の毛皮は極めて高價に珍重されてゐるので、之に似た本種が作出され、チンチラの名稱が附せられることになつたのである。毛の根部は石盤藍色で、之が毛の二分の一まで續き、その上は灰鼠色—眞珠灰色—白色となり、先端が黒色と染分けになつてゐる。又その間に黒色の長毛が雜生して波狀の外観をなしてゐる。毛を吹けば以上の各色が輪狀となつて現はれるで、ウヅマキ兔の別名がある。全體としては胡麻白色で黄色の色素がない。體型は頭部と耳朶が小で、頭が短く體は圓くて腰が廣い。體重は米國種で牝七百—一貫、牡六百五十一—九百匁位である。但し内種が澤山あつて大型のものは之以上にも及ぶ。

3. 性状—チンチラ種が母兔として哺育に巧なことは定評のあるところで、屢々アンゴラやレッキス等を蕃殖する場合に利用される。又本種は發育が速く強健で、蕃殖力は旺盛であり、且つ早熟で生後六ヶ月で蕃殖に供することが出来る位である。年四—五回分娩し、一回平均七頭位生むが、十頭以上に及ぶことも稀では無い。

4. 用途—本種は前述の事柄で判る通り専ら毛皮が利用されるのであるが、肉質も佳良であつて他に遜色を見ない。

附 アンゴラ種及びレッキス種に就いては、その大要を附録として記載して置いたので巻末を参照ありたい。

養兔の設備

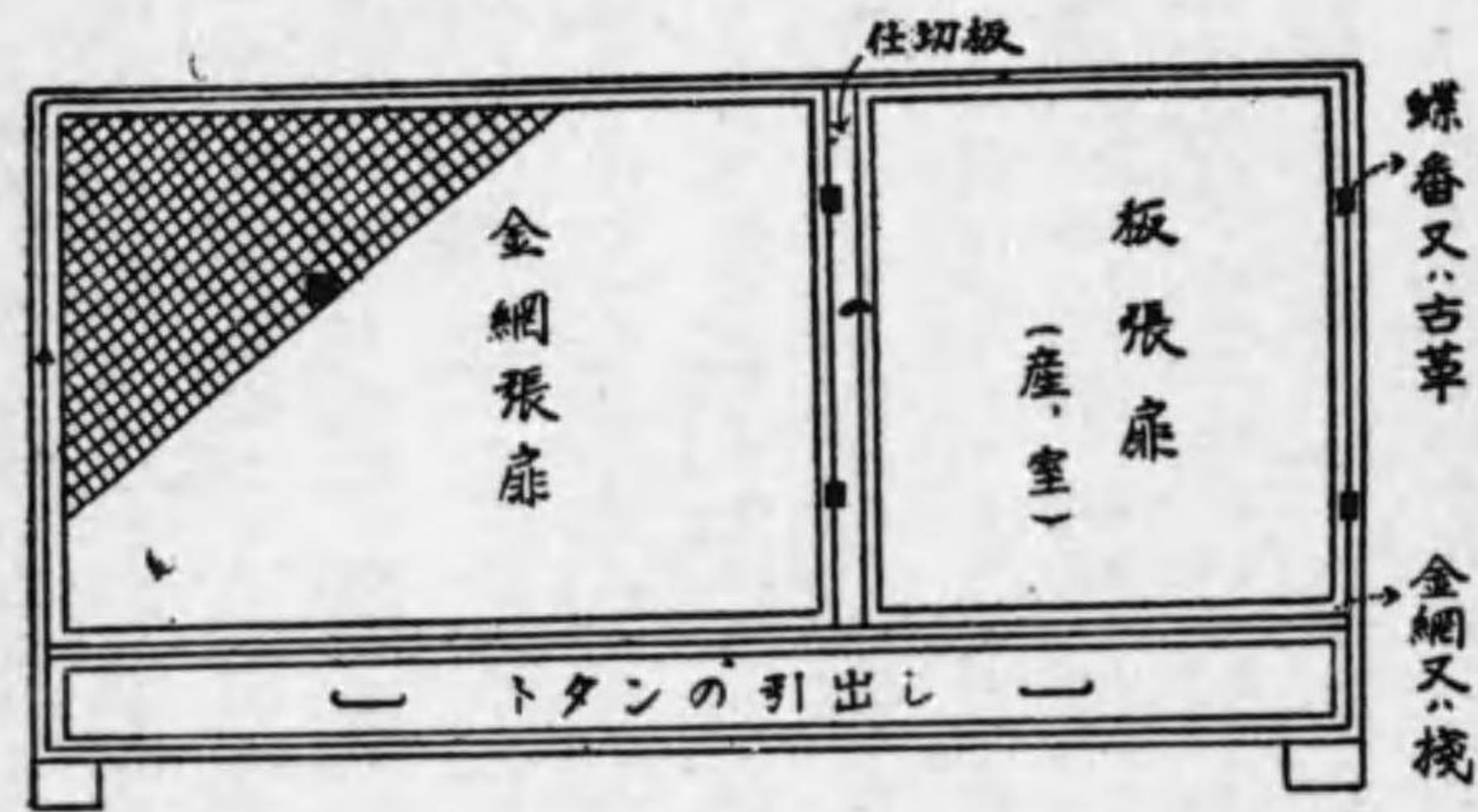
既に述べた如く、養兔は農家の副業として畦畔の野草又は牧草、穀類、根菜類の廢物利用として農業經營集約化の下に行ふところに生命がある。それで飼養頭數も二十乃至三十匹位が程度であるとする、殊更兎舎などを設けては引合はないし、又設ける必要もない、それで本書に於ては兎舎の設計については之を省略する。

更に多數の養兔を希望する一方は、他の參考書について之を研究されたい。之を省くのは限られた少い紙面であるから、もつと必要な事項にページを割愛したい爲である。讀者は之を諒とせられたい。

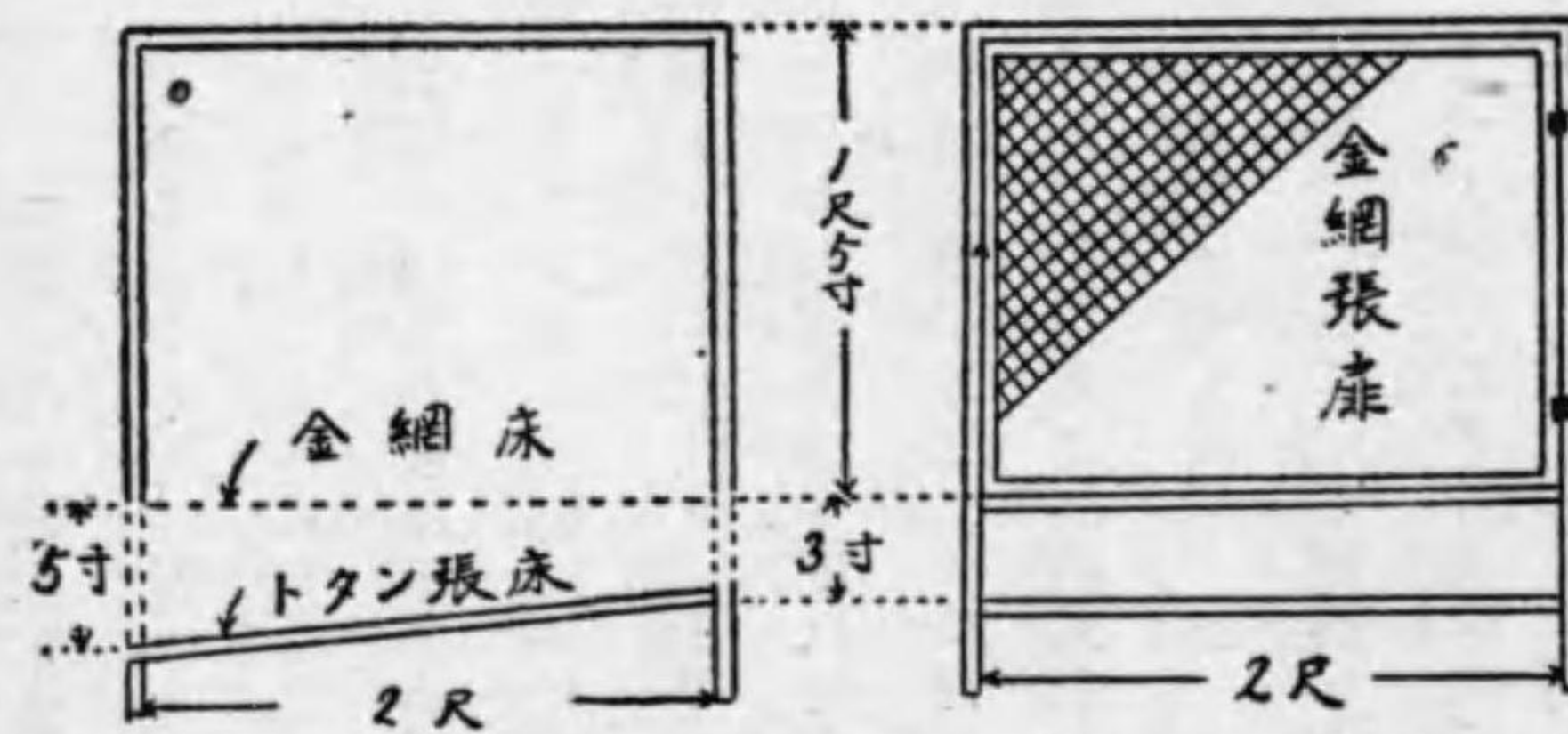
一、飼育箱の作り方

飼育箱も理想的なものを作るに越した事は無いが、高級兎の飼養で無いならば、わざわざ大工に作らせたり、又新しい板を買つて来て作つたりするに及ばない。元來が副業であるのだから、収益といふことを無視せぬ様に考へるべきで、その意味から言つて、出来るだけ簡単なものを利用する様にせねばならぬそれを石油箱とか、マツチ箱とか、麥酒箱鶏卵箱の様なものを一寸手を加へて改造し、そのまま利用する様にしたいものである。寸法はどちらかと言へば大きいものがよいが、大きすぎれば色々な點で不便、且つ不經濟であり、小さ過ぎれば兎の衛生上に悪いことになる。箱の大きさについては人によつて色々説を異にするし、兎の大型のものと小型のものとは自然大いさも異ならねばならぬが、大體牝用(産室付)で間口二尺八寸から三尺、奥行一尺八寸から二尺、高さ一尺六寸から一尺八寸位。牝用は間口、奥行各二尺位、高さ一尺八寸位を標準として、之より多少の出入は差支へないと考へればよろしい。但し種牝兎だけは出来れば間口四尺位に擴げてやる方がよい。

牝用飼育箱の一例



牝用飼育箱の一例



○の構造は之又種々あるが、日常の取扱ひに便利で排水装置がよく出来て居り衛生上具合よく、又製作上手間や經費が多くかゝらぬことが要點である。今その一二例を圖で示して見よう。

圖の上のは産室附牝用飼育箱で、間口三尺とすれば一尺八寸と一尺二寸位の割合に仕切り、その狭い方を分娩室とする。分娩室の前面は板張りの扉を附け、兩室の仕切り板は抜き差しが自由に出来る様、天井と床に溝をつける。仕切り板の高さは箱の内部の高さに應じ、幅は一尺乃至一尺二三寸とし、後の方は兎が自由に通れるだけ空ける。此の板は又いつばいにして通れるだけの穴をあけて置いてよい。此の板は平常は外して置いて、分娩が近づいた時嵌る。金網は五分目で鼠の通れぬ位をよしとする。金網の代りに棧を四分置き位に打ちつけた扉でもよい。床は金網又は四分置き位の棧として糞尿が下のトタン製の抽出しに落ちる様にする。抽出しは勿論木製でもよい。又下圖の牝用飼育箱に示した様に傾斜を設けたトタン張りだけで代用するもよい。

之等の様式は取扱ひの便な様にいくらも工夫して改良出来るので、茲に示した通りにしなければならぬといふ譯ではない。もつと手をかけて便利にするか、もつと簡單にして製作に手のかゝらぬ様にするかは、それは諸君の隨意であるが、澤山作つてしまつてから、肝心な點を忘れてゐたとい

ふのでは困る故、製作上重要な注意だけを次に示して置く。

1. 床を金網か又は棧にするのは、中に糞尿が溜らぬ様にする爲で、衛生上最も大切なことである。若し箱のまゝ何も手をかけぬでそのまゝ床とする場合は、是非とも床面に小穴を數個あけて、尿だけはどうしても床に溜らぬ様にせねばならぬ。しかし、此の尿を肥料にせず棄て去つて顧みない様では農業者の資格はない。

2. 凡て金網を張る際には、直接箱に張つてもよいが、別に枠を作つてそれにつけ、取外しが出来るやうにすると掃除、消毒等凡てに便利である。金網を張る際には、金網用の止め釘（U字狀の釘）で張らないと後で弛んで困る。床の金網みは兎の目方で弛まぬ様、横に一二本棧を嵌て、その上から金網みを張ること。

3. 扉の開き方は右開きでも、左開きでも箱の配置の如何によつて、取扱ひ上便宜な様に決めなければならぬ。

4. 分娩室は箱を積み重ねない時は、上部の板が取外せる様になつてゐると非常に便利な場合が多い。室内を暗くする要があるのだから、前面の扉は必ず板戸でなくてはならぬ。

5. 前面の扉は止め金（アフリ止め）を充分にして、兎が逃げたり、又は外からの害敵に侵されたりせぬ様注意せねばならぬ。
6. 箱を積重ねる場合は、上の箱の尿の仕末を完全に考へなければならぬ。又此の際一番下の箱には五寸以上の高さの足をつけ、或は臺の上に載せる、之は衛生上からも取扱ひ上からも大切なことである。

二、飼育箱の置場

飼育箱は本道では成るべく南向きに排列し、常に光線浴をさせる様にするがよい、夏季はさほどでもないが、秋からの寒さを凌ぐのには南向きがよい。しかし、光線といつても直射ではない。明るい所といふ意にとつて欲しい、普通農家では別に兎舎を設けず、小屋の一隅とか、軒下とか、又は椽の下などに置く場合もあらうが、とも角も薄暗いことや北風が賊風（スキマ風）として吹きこむことが大禁物であるから、此の點に大いに注意を拂つて貰ひたい。

夏季餘り暑いのも不可であるから、飼養箱には手をつけて移動式にして置き夏季炎暑の際に、若

し置場が適當でなかつたならば、一時他へ移動するなどもよろしい。

飼育箱を置くところは、採光、保温と共に乾燥といふ事が大切である。濕氣の多い場所は諸種の病氣、殊に消化器の病氣を發生し特に仔兎では生育にも關係を及ぼすから注意しなければならぬ。

三、必要な器具

無ければ無いでも済むし、又何でもあり合はせのもので代用、又は兼用出来るが、参考のため一通り書き並べて見よう。

1. 給餌器と給水器

箱の中を清潔に保つ爲に草の外の食物は給餌器に入れてやる方がよい。此の際注意としては給餌器は相當の重みがあつて、容易に引つ繰返らないもので、洗滌しやすく常に清潔乾燥を保ち得るものでありたい。普通農産製造粕類、穀菽類、或は清水等を與へるには、鶏の飲水器或は水鉢と言はれてゐる、陶器製の圓形の器が最も適してゐる。

2. 草架

生草や乾草を其のまま箱の中へ入れてやると、大抵之を踏みつけてしまつて不経済である。此の無駄を防ぐ爲と、同時に兎にも食べ易いやうに考へられたものが草架である。牛や羊を飼ふ時の草入れと同様の性質のものである。箱の寸法に従つて木枠を作り、之に一寸目位の金網を張つて、箱の上部の都合のよい隅に草を入れてかけてやるか、又外から草を入れ得る様な仕掛けで取付けにしてしまつてもよい。

3. 其の他の器具

糞掻—幅三、四寸、高さ一寸五分位の蒲鉾形の厚金を、長さ二尺程の柄に取付けたものがよい。ブラシ—床の水洗ひする爲に六尺位の竹の柄をつけたのが便利である。

帚と塵取—他に用ひるものと兼用でよろしい。其の他—必要に応じてバケツ、タワシ飼料の配合、分配等に用ひる移植鉢、消毒用噴霧器その他を用ひるが、之等は皆他と兼用で間に合ふものである。

飼料と給餌法

一、飼料の種類

初心者には兎に何を食べさせたらよいかと心配するが、有毒植物や刺戟性の植物を除いた他の植物は何でも與へて差支へない。難しく言へばその中にも適不適の差はあるけれども、我々農家の副業としての養兎にそんな専門的研究は要らない、従つてその種類と言ふと、野草、牧草、樹葉、野菜類、稿稈類、糠麩類、穀菽類、農産製造粕類等多種多様である。今之等について多少の注意事項を記して見ると

1. 野草、牧草、樹葉類

兎は左程利益の多いものではないのであるから、飼料には金のかゝらない之等のものを主食物として利用しなくてはならない。此の利用の巧拙によつて養兎の盛衰が分れると云つてよい位である。冬期間は之等を得るに困難であるから、夏季に之を乾草として充分に貯へて置くことである。乾草

は雨に當らない様にして、手でつかめば粉になる位よく乾燥することである。

2. 野菜類

野菜類は何でも兎のよい緑飼料である。葉や莖も根もすべて利用出来る。冬季の緑飼料の不足は之で補ふ。それで間引いたものや、賣物にならぬ不良品など悉く之に利用するがよい。但し馬鈴薯の芽の出かゝつたものは不可。

3. 稿稈類

稻、麥類の藁、豆類の莖葉、芋蔓、その他作物の莖葉すべて飼料に利用出来る。たゞ蕎麥だけは花の咲いてゐる時は往々中毒を起す虞れがある。

4. 糠、麩の類

之等は緑飼料が需てゐる際のマブシ用として、又豆腐粕の水分を少くする爲の混合用としても利用されるが、又單獨に水で練つて與へても好い飼料である。

5. 穀菽類

之等は高價なものであるから、榮養を補助する意味で、副食的に與へる。勿論屑物も結構である

が、緑飼料だけでは養分が少く往々榮養不良となるから、之を補ふ意味で穀菽類を適當に給することは大切である。

6. 製造残滓類

之等は得やすい地方と、得られぬ所とあるが、豆腐粕、澱粉粕、豆粕、餵粕、ビール粕等みな兎のよい飼料である。豆粕を肥料に用ひる家などでは、一旦之を家畜の飼料とし、之が糞尿を利用する様にする方がよい。

7. 特殊飼料

病兎、妊兎、母兎、仔兎等には飲水の代りに牛乳を用ひ、或は魚粉を飼料中、重量の〇・五―二〇%位混與して成績を擧げる場合が多い。肝油を飼料中に〇・一乃至〇・五%位加へると大いに効果がある。又食鹽は固形鹽として販賣してゐるものを、箱の内部に針金で吊るし、隨時舐させると便である。食鹽は草食動物に必ず缺いてはならぬもので、若し固形鹽が無ければ普通の鹽を隔日位に〇・三―〇・五%位混せてやる。又木炭末は兎が下痢した時、氣候激變の際、食欲不振などの際飼料中に五%位混せてやると有効である。

8. 飲料水

昔から我國では『兎に水を飲ませれば死ぬ。』など言ひ傳へられて來たが之は偽である。たゞ綠飼料のみ與へてゐる時は左程必要が無いと言ふだけである。乾草や穀菽類などを主とする際には非常に水分の不足を告げるから、是非清水を與へねばならぬ。殊に斯る際の分曉及び仔兎に哺乳せしめてゐる母兎には、水は必要不可欠である。故に毎日の之を與へて欲しいだけ飲ませねばならぬ以上は水分のない飼料を與へる時であるが、日常水を用ひることは、管理上頗る不便で、急に水を與へたり、又は與へなかつたりすれば、兎を斃す場合が少くないので、前に述べた『水を與へれば兎が死ぬ。』といふ場合を生ずるのである。又、水が不潔になつたり、傳染病の媒介となつたりする危険もあるので、平常は野菜、青草等の水分のあるものを與へて置き、水を與へぬ習慣にすれば、不規則に水を與へたよりも遙に管理が樂で、而も危険が少く有利である。

9. 飼料として用ふべからざるもの

前記の毒草、刺戟性植物(ニンニク・ネギ・唐辛子・山葵・生薑の如きもの)、開花中の蕎麥、發芽中の馬鈴薯等の外、雨露水滴のかゝつた綠飼料、水分の餘りに多すぎるもの、凍つたもの、

酸酵腐敗したもの等は與へてならない。雨に當つた草などは一旦乾かすか、又は糠の如きものをまぶしてから用ひるのである。

二、飼料の調理法

飼料の中はそのまゝ與へてもよいが、調理して與へることが普通である。之に洗滌、乾燥、截斷粉砕、浸漬、浸出及び煮沸等がある。

1. 洗滌 土やその他の汚物が附着してゐるのは洗つてから之を與へる。
2. 乾燥 取立ての水々しい青草や野菜類、洗ひ立ての水の乾かぬもの、雨露に濡れてゐるものは二―三時間乾かしてから與へる。下痢その他の病氣を防ぐためである。
3. 截斷 餘り長い稿稈類などは之を適當に切つて與へる方がよい。
4. 粉砕 玉蜀黍のやうに外皮の硬いもの、豆粕や澱粉粕のやうなものは、一旦粉砕してから練餌として與へる、水加減は握つて見て指の間から水分の出ない位がよい。
5. 浸漬 乾草や稿稈類を冬季に與へる場合には、一旦熱湯に浸すのがよい。又穀菽類のやう

な外皮の硬いものは、水又は湯に浸して幾分軟かくして與へた方がよろしい。

6. 浸出 馬鈴薯やうちは豆(ルーピナス)のやうな中毒素を含んだものは、薄く切つて五―六時間水に浸してから與へる方が安全である。

7. 煮沸 馬鈴薯の毒ソラニンの如きも煮れば無害になる。その他飼料を軟かにするためにも此の法が用ひられる。

三、給餌法と其の分量

給餌には不斷給餌法と回数給餌法とがある、英國あたりでは近來此の不斷給餌法を行つてゐると聞くが、設備の不完全な副業養兔に於ては先づ回数給餌法が安全である。

普通は朝夕二回、又は朝晝晩の三回與へる。しかし、之は兎の年齢、飼料の如何、季節の寒暖等によつて加減しなければならぬ。即ち仔兎には三―四回に分與した方がよく、濃厚飼料の際は二回、粗飼料を主とする時は三回、夏季は二回、その他は三回といふ風に調節する方がよろしい。給餌の時間は一日二回の場合は一年を通じて日の出及び日没を標準とし、三回の場合は朝六―七

時、晝十二―一時、夕五―六時を標準とし、季節によつて適宜加減して行く。

給餌の分量も初心者心配するところであるが、實際飼育して見ると、兎は食べるだけしか食ないものであるから、常に兎の要求に任せて食ひ残さぬ程度に與へるがよい。そんなに八ケましい事を言つても、農家の副業としては正確には出來ないものである。大体要求量を知つて置くことは必要であるが、それは飼料を少し多目に與へ、その残した量によつて適量を推計すればよろしい。但し此の試験の時間は三十分では少く、二時間では多いとされてゐるので先づ一時間から一時間半で食分量を以て一回分の適量とするがよい。が一般に兎は日中は休み夜間に活動する性質があるから、夕方には多少多目に飼料を與へ、其の他は稍少い程度に與へるのが合理的である。

尙、濃厚飼料(穀類、根菜類、豆腐粕の如きもの)と、粗飼料(綠飼料、稿稈類の如きもの)の配合割合の如きも學問的に言へば、仲々六ケしいものであるが、我々の副業養兔では、そんな六ケしい理論を研究する程の要もあるまいから左に衣川氏の「最新養兔法」中の實例を二三示して之れから凡そ推測して給與することにしよう。(重量を匁に直す。之も大体である。)

イ、農林省畜産試験場の飼養一例

ニュージールランド・ホワイト

飼料並に給與量(成兎一頭當り)

朝 青菜 三二匁
 晝 豆腐粕 二〇匁
 夕 粒餌 一二匁

粒餌の配合割合(重量比)

大 麥 四五%
 小 麥 四五%
 大豆粕 一〇%

ロ、畜産試験場石原氏の發表せるもの

生體量の八分の一、即ち八百匁の兎には百匁の飼料を給する。そして其の割合は綠飼料七割(七十匁)穀類三割(三十匁)といふ工合にする。

ハ、本邦在來の飼ひ方

本邦では從來豆腐粕を主として飼養する方法が行はれたもので、次の例は大阪で多數の養兎をなす松蘭氏の飼料給與標準例である。

成兎 主食豆腐粕大人の一握り、約百匁、朝夕二回。

妊娠兎 同一握りを若干多くし、約百三十匁。同前分娩後哺乳十五日迄、同一握り弱、約百八十匁。同前同、二十五日頃、同一握り半、約二百五十匁。

同上 仔を離し休養期五日間、同一握り半約百五十匁。

幼兎 離乳後二十日迄成兎の六分の一。一ヶ月後約四分の一。六十日まで三分の一。三ヶ月迄約半分。四ヶ月より成兎分。草は團めて一握りの量を夕餌一回。

注意 農家では豆腐粕を得られぬ向きが多いが、成兎、妊娠兎、幼仔等に對する分量の割合は大いに参考になるであらう。

ニ、米國にて行はれるもの

△給餌回数 朝夕二回

朝 濃厚飼料 夕 綠飼料或は乾燥牧草

△濃厚飼料の配合割合

第一號		第二號	
壓延燕麥	100	小麥麩	100
同大麥	100	壓延大麥	33
粒又は粉小麥	35	玉蜀黍	33
挽割玉蜀黍	35	落花生粕	4
亞麻仁粕	10		
第三號		第四號	
オートミル	100	壓延燕麥	100
麩	50	麩	75
小麥	50	小麥	25
挽割玉蜀黍	30	挽割玉蜀黍	25

亞麻仁粕

八

蔗糖蜜

二五

以上の配合の如く、成るべく多種類を配合し單調を避け、時に脱脂乳、玉蜀黍粕、その他のものを加へる。

其の他に最も簡單なのは燕麥を柔軟になるまで水に浸して後、水を去り、同重量の麩を混する練餌は給餌前に熱湯を注ぎ、各飼料が混和され相附着するを程度とする。

一日の量は一貫二百匁の成兎に對して穀類十五匁、乾燥牧草三十七匁餘。妊兎及び育仔中の母兎には、夕刻にも七匁乃至十五匁の穀餌を與へ、乾燥牧草も多少増加する。以上の外に水を與へぬ場合には綠草及び根菜類を若干宛毎日必ず給與する。

ホ、英國デヒス氏の標準

1. 秋冬季飼料 七百二十匁の兎に對し、乾燥牧草二十二匁半、根菜類六十匁、一貫内外の兎には乾燥牧草三十三匁、根菜類九十四匁とし、各々に濃厚飼料七匁半乃至十二匁を加へる。
2. 春夏季飼料 山野に綠草の生ずるときには、綠草を以て乾燥牧草及び根菜類に代用する。春

季は生體量の八分の一内外の綠草に濃厚飼料七匁半。八月初旬より濃厚飼料の量を徐々に増し、十月中に秋冬期飼料の場合の最大量に達せしめると共に、綠草類より乾燥牧草及び根菜類に推移する様にする。

妊娠飼料としては、受胎後の二週間は從來の飼料の儘とし、其の後漸次に濃厚飼料を増加する。冬季ならば根菜類の量は増加しないが、春季から夏草の榮養の多い時期には成るべく多給する。分娩後には授乳の爲に蛋白質の多いものを要求するので、滋養の多い消化のよいものを與へる。尙次に示すのは東京種兔場主山崎光美氏の研究になる標準である。同氏著「兔の飼ひ方」に據る

○體重八百匁乃至一貫匁内外の成兔一日の飼料配合例及び給與量

- 朝 豆腐粕七〇—九〇% 麩、麥糠、米糠の中一種三〇—一〇% 以上に鹽〇・三—〇・五%
隔日加用 計四〇—八〇匁
晝 生乾き綠飼料、野菜屑、根菜類（人蔘、甘藷、菁等）の中一種又は數種併用 計三〇—六〇匁
夕 小麥、大麥、玉蜀黍、高粱、枇、燕麥、ライ麥等をそのまゝ、又は粉碎、水浸し、芽出しそ

の他適宜に調理せるもの、中一種又は數種併用、計一五—三〇匁。他に綠飼料の生乾き四〇—八〇匁、又は乾燥せるもの一五—三〇匁

注意—（朝）麩、麥糠、米糠は大體一週間交代。飼料中に魚粉を加へ、又は固形鹽を吊るして隨時紙食せしめる場合は鹽の加與不必要。魚粉を加へる場合には〇・五—二・〇匁位とする。

（晝）夏季は妊娠、母兔、仔兔以外の常態にある成兔には清水のみ與へて全然給餌せぬか、又は二〇—三〇匁程度に與へる。

（夕）草架を以て綠飼料（生乾きと乾燥との別なく）を給する場合には特に綠飼料給與の必要なし。但し草架を時々検査して不足せぬやうに補給のこと。

尙、晝及び夕に用ひる飼料材料は、大體一週間交代とし、一種又は數種を併用する。

四、給餌上の注意事項

1. 家兔は極めて習慣的の動物であるから給餌時間は規則正しく勵行すること。
2. 飼料の變化は徐々に行ふこと。急に變更すれば下痢その他の消化障礙を起す。

3. 腐敗、凍結、濡た飼料は給與せぬこと。
4. 夏季飼料は發熱料の多いもの、即ち脂肪や澱粉に富むものを選けること。
5. 飼料は單用せず、綠草でも幾種類か混用するやうにすること。
6. 兎は食料に飽き易い性質があるから同一配合の飼料を連用せず、常に少しづつ變化をはかること。
7. 常に喫食状態に注意し、飼料の過不足を生ぜぬやうにし、残りの飼料は棄て、食欲不振のものには投薬又は給餌量の加減を行ふこと。
8. 妊娠、哺乳中の母兎には量を多くし、又栄養分に富むものを與へること。
9. 兎は飢ゑると平常嫌ひなものでも食べるものであるが、これは止むを得ず食べるのだから平素注意してかゝることのない様にせねばならぬ。

蕃殖と育仔

一、蕃殖の方法

(一) 種兎に就いて

種兎は牝牡共に健康で、栄養の佳良なものを選ぶべきである。年齢は牝は春生れのもの、生後七ヶ月以上、秋から前年末迄生れたものは六ヶ月以上とし、牡は十ヶ月以上のものを用ひるがよい。生後三年以内で種兎の更新を図るのが望ましい。しかし牡兎で外に適當な優良種兎を得られぬ時は仕方が無いから、種付回数を減じて四―五年迄使用する。牝は三才以上になれば分娩はしても、泌乳力が衰へる爲、仔兎の育成上に缺陷が出来るものであるから、なるべく老齡なものを用ひぬがよい。また餘り脂肪のつき過ぎたものは、種兎として不適當である。

(二) 蕃殖の時期

蕃殖の時期としては飼養上の都合から、本道の如き寒冷の地では、十二月中旬から三月初めまでは分娩を避ける様に種付するがよい。兎の妊娠期間は三十日であるから、之を考へて適宜種付を調節するのである。

五月頃及び十月頃の換毛期、及び酷暑、嚴寒の候に種付を避けることが大切である。その年の春に生れたものはその年の秋に換毛をしないから、之は繁殖に用ひられる。

(三) 繁殖の回数

繁殖は年十回も出来るなどいふ人もあるが、牝兎の爲にも仔兎の爲にもよくないので四回及び五回位に制限した方がよろしい。

(四) 兎の發情と交配の方法

兎の發情に週期があるとか無いとかの研究は専門家に任せ、我々實際副業養兎家は、發情の有無を直接牝を牡の箱の中に入れて、試して見るのが一番早道である。兎は一年中を通して、殆ど交配させ得るのである。

交配させるには夏季は朝の涼しい中、冬季は晝の暖かい時間を見計らつて、牝を牡の箱の中に入れる。之と反對に牡を牝の箱に入れると、牡は箱の中の臭を嗅いで廻つて仲々種付しないし、その他種々不都合があるので必ず牝を牡の箱の方に連れて行くことである。そして飼養者の監視の下に交配させる。種付は概ね數分で終る。種付が終ると牡は牝の背中から倒れて奇聲を發する。(發せ

ぬこともある)二回も三回も續けて交尾させる人もあるが之は害あつても利はない。

尙、アングラ種はその長い毛によつて交尾が妨げられ易いから、牝牝とも陰部附近の毛を刈取る

がよい。

種付が済んだら、直に牝を元の箱に返してやる。若し最初牝を牡の箱に入れてやつて數分待つても、牝が牡を拒むやうなら、その時は牝が發情してゐないものと認めて元の箱に返し、之を二三日繰返すと大概種付するやうになる。但し未経験の處女兎であると、發情してゐるに抱はらず牡から逃れようと馳せ廻つたり又は箱の一隅に後軀を伏せて容易に起上らぬものがある。かういふ場合は交配を手傳つてやる。

交配補助は俗に糸交け法といつて、牝の尾の先を紐で結んで背部に沿ふて緩く右手で頭部の方に引き、同時に右手の人指し指を兩耳の中央に挿込み、兩耳を手の掌や指で壓さへ、左手で牝の後腹部を軽く持上げて、自然交尾のやうな姿勢をとらしめ、暫時靜かに保つと大概交尾を完了し得る。

(五) 牝牝配合の割合と交配數

牝牝の割合は牡一頭で牝五乃至十頭を配合出来る。春の繁殖期には榮養を良くすれば、一日一回

位の割合で、十日間位連続交配しても差支へない、他の季節では四―五日置きに一回位の割合で交配するがよい。

一頭の種牡兎の一年間の種付回数、年齢、元氣等によつても異なるが、百五十回以上に及ばぬ方がよい。餘り多く使ひ過ぎると種牡兎の使用年限を短縮する。四五才位の老牡ならば一年七―八十回を限度とする。

二、妊娠期の飼養管理

(一) 偽妊娠
種付しても一―二割は受胎せぬことがある。こんな場合には種付後十日乃至十五日に至つて二―三日間、偽妊娠といふ状態に陥り、恰も妊娠中の兎のやうに發情を停止し時として藥を吐へたり、腹部の毛を少し抜いたりして巢を造る様子を示すものがある。之は、俗に中巢と稱し、それが起つてから十日乃至五日で平靜に歸る。

(二) 妊娠兎の見分け方

交配後數日して再び牡の箱に入れて見て、頻りに低く鳴いて牡の近づくのを嫌ふものは受胎妊娠してゐると見てよい。交配後十日程すると、妊娠兎は極僅かではあるが、乳頭が淡紅色となり、日を経るに従つてハッキリして来る。妊娠して居らぬものは改めて再交配を行ふ。

(三) 妊娠中注意すべき事柄

1. 交配後二十日乃至二十四―五日頃、箱の中の大掃除を行ひ、箱の仕切り板を建て、産室と食事兼運動場を仕切り、産室にはよく乾燥した藥又は草を三―四寸に切つて充分に入れる。妊娠兎は自分の體毛を抜いて巢を造るものであるが、放任して置くと毛或は毛皮を損傷するから、古綿のやうなものを與へ、營巢の材料に供するがよい。
2. 妊娠中は神経が嵩ぶつてゐるから努めて安靜にし、餘り箱に近寄らぬことである。分娩時期に近づいたら飼育箱の前方に布など張つて、外部の直視を遮るがよい。
3. 妊娠中は飼料の分量を増し或は消化のよい飼料を與へて母體衰弱を防ぐことである、穀類やクローバー等は最もよろしい。

三、分娩前後の飼養管理

(一) 分娩

分娩は大抵三十分乃至一時間位で終る、分娩した母兎は直に後産(羊膜や胎盤)を食ひ、産仔の體を紙清め、巢の中央に集め、抜け毛や糞の中に隠す。若し巢の外に仔が出てゐる時は、母兎の尿臭を手につけて、仔を巢の中に收めてやらねばならぬ。

(二) 分娩後の母兎の取扱ひ

分娩後の兎は渴を覚えるものであるから、水、牛乳又は水氣の多い緑飼料、根菜の類を忘れずに與へることが必要である。又飼料は吟味して良い飼料をだんく増して與へるやうにする。

分娩後二―三日中に再び交配させるのを早交け法といふ。之は受胎が確實である爲、産仔が少くて次の仔を早く得たい時、又は死仔を分娩し、或は産後間もなく仔兎の死亡した時などにも應用される。春四―五月の最も兎の健康状態のよい時期で、しかも、母兎も強健なものに限つて行はるべきことであつて、無暗に之を行ふべきではない。此の際は勿論産仔を全部假母(乳母兎)に托し

母兎に哺乳せしめてはならない。そして飼料を大いに吟味して與へる。

普通の場合には離乳後十日位の休養期を置いて、再び交配せしめるのであるが、健康な母兎であるならば分娩後一ヶ月乃至離乳直後に再交配せしめ得られる。

四、哺乳期の仔兎の管理

(一) 巢の検査

母兎が分娩したら一晝夜位は絶対に巢に觸らぬことである。その後産仔の數や仔兎異状の有無を検査する爲、餌で母兎を巢から誘ひ出し、その留守に目的を達するやうにする。若し母兎の居る所で仔兎に觸れたりすると、母兎は興奮して仔兎を噛み殺したり、或は食つてしまつたりすることがあるから、大いに注意を要する。

若し仔兎の數が六―七頭より多ければ、その多い部分だけ取去つて、之を他の母兎に託さねばならぬ。又死産があれば取除く。その他保温材料が不足なら追加する。

(二) 仔兎についての注意

仔兎は生後四―五日で産毛のやうな細毛を生じ九―十日で眼を開き、二―三週間で室内を歩行し母兎の餌を食たりする様になる。此の頃になる迄は産室をそのまゝにして置き、その後になつて箱の掃除をし、敷薬なども新しいものと取換へてやる。仕切板も取除いてよい。但し寒い時はもう暫らく之を保存して置くことである。

(三) 乳母兎について

乳母兎がどんな場合に必要であるかは既に了解の事と思ふが(一)甲が八頭生み、乙が四頭生んだ場合に、甲の仔兎の中から二頭を乙に託してその平均をとるため、(二)アンゴラとかレッツキス等の高價な種類の兎が七―八頭以上も生んだ時その多過ぎる仔を委託するため(三)或は高價な兎とかその他でも早く蕃殖してその種類の兎を殖やしたいとかの場合、分娩後つゞけて再交配の爲その仔を全部取上げて之を委託するため等いろ／＼ある。委託する仔兎は生後四―五日位が最もよく遅くも十日以内であつける。

それで早交け法を行ふやうな場合は豫め乳母兎(假母兎ともいふ)とする爲に、育仔が上手で且つ安價なチンチラ種とか白色日本種等を選んでその牝牡を交配し、同日位に分娩する様に用意す

るがよい。委託するには先づ過多の仔をもつ母兎、早交け法を行ふ母兎等を給餌にかこつけて箱の外に出し、その不在中に手早く適當な數だけ、又は全部の仔を取り、次いで乳母の汚れた敷薬を委託する仔になすりつけて、その臭氣を仔兎に移し、乳母が自他の仔の區別がつかぬ様にする。高價な兎の仔を委託する際、それが三―四頭以上の場合には、その乳母の仔全部を間引いて棄てるのである。

五、離乳前後の飼養管理

(一) 離乳の時期と方法

離乳は生後一ヶ月乃至一ヶ月半後に行ふ。仔兎の成長状態や氣候の寒暖で加減するのである。餘り離乳が早いと消化不良を起し、所謂痲病などに罹り易い。種兎とする兎は二ヶ月後に離乳する。離乳は一度に行はず、次第次第に乳から離すことである。此際は分娩箱に仔兎を置いて、母兎を他の箱に移すと、仔兎の生活を激變せしめないからよろしい。離乳後二週間位で其の箱の仔兎を分け

(二) 仔兎の收容數
離乳後の仔兎の一箱に對する收容數は、一頭について生後二ヶ月まで一平方尺、それより一ヶ月増す毎に一平方尺を加へ、四ヶ月以上のものは必ず一箱に一頭宛收容するやうにする。見分けがつけば牝牡別にすることがよい。

(三) 仔兎の飼料
仔兎の飼料は大體母兎の飼料に準じ、唯消化し易く栄養に富み且つ水分を含むことが餘り多くないものといふ注意を拂へばよい。分量及び回数に二ヶ月まで成兎一日量の三、四割を四―五回に分與、三ヶ月までは成兎の同五―六割を三―四回に、三ヶ月以上は同七―八割を三回に、それから漸次成兎並にして行く。

(四) 仔兎育成上の注意
仔兎は一番寒さに弱くから、冬季は温かい敷物を充分に與へ、まだ寒さを感じる様であれば箱の前に布を垂らす様にする。傳染病に罹らぬ様清潔と乾燥に留意し、時々消毒を行ふこと。生後三―四ヶ月で發情するから、それまで牝牡を同居させてゐたものは必ず別居させることである。此の頃

になると素人でも牝は陰囊を、牝は乳房を認め得るから、兩者の區別が出来るものである。

一般成兎の飼養管理

一、飼養管理の要諦

飼養管理の要諦は動物愛護の精神である。如何に合理的な設備があり、如何に優秀な種兎を得佳良な飼料が豊富であつても、愛護の念が缺けてゐたら養兎は決して成功するものではない。常に家族と同様な考へを以て之に望まなくてはならない。「最良の飼料は管理者の眼である」といはれてゐる位で、常に兎の状態を監視してやらねばならない。一頭の病兎を見逃したばかりに、全群にその病菌を傳染せしめて全滅の悲運に陥つたり、或は設備上の不完全から、野犬の爲に一夜にして貴重な兎の大多數を屠られたりすることは決して稀ではないのである。一日數回見廻つて些細の事でも直に應急の手段を實行するといふ様に心掛たならば、諸君の養兎はきつと成功するに違いない。

之が飼養管理の根本的の秘訣である。

二、毎日の日課

朝 朝食前に飼料を調製して餌器に盛り順序よく兎に配る。其際兎の舉動や容貌、糞の状態などに眼を配る。前面の網戸に立上つて餌を求めるやうなものはよろしい、若し扉を開けて餌器を中に入れても猶出て来ない様なものは、何か身体に故障があるものである、臨機の處置を採らねばならない。

朝食後は餌鉢の取上げと糞掃除である、まだ食べ残してゐるもので、直食べる見込のないものは取上げて足りないものに廻すがよい。兎糞量は一日五十匁乃至八十匁であるから餘り溜ると掃除が厄介であるが、糞掃除は毎日しなくても夏季は隔日、冬季は四―五日置位で差支ない。

掻き出した糞や餌のコボレは立派な肥料となるから、適當な場所に堆積して堆肥を造る。
晝 仔兎、母兎、妊兎等一日三回給餌の要あるものには、晝も献立に従つて給餌する。清水を給餌する人は此の時全兎に一齊にやると忘れなくてよろしい。

夜 給餌は朝と同様である。仕事が終わつたときは戸締りに十分氣をつけること。

三、飼養管理上の心得

(一) 運動

夏季は仔兎を運動場に出して運動させるがよい、運動場は設備を嚴重にし犬などが侵入せぬやうにする。出来るなら見張りをするがよい。一日に三―四時間位。生後四ヶ月も之を續けると、その成長が速か且健康である。殊に交配後の種牡兎には之が必要なことである。種牡兎は之が爲に精力を恢復する。天候の悪い時は勿論見合はせるのである。

(二) 外敵防禦と安靜

兎は弱い動物で且つ攻撃防禦の武器がない、それで犬、猫、鼠及び地方によつては鼯などの害を受ける。特に犬の害は大きい故、之については十分考慮を拂はなければならぬ。

又兎は性質が怯懦で物に驚き易い。故に兎舎では成るべく靜にし、犬猫などは近づけない様に、すべて安靜を保つやうにしてやらねばならぬ。

(三) 兎の捉へ方

よく兎の耳を持つて之を扱ふ人があるが、目方二―三百匁位の仔兎なら格別、相當の重量のあるものは絶対によくない。普通は仔兎でも成兎でも頭と眉の中間の背の皮を大きく鷺握みにするがよい之は握む方も兎も樂である、さうして右手で臀部及び後肢を支へるのが最もよい。妊兎、種兎はなるべく腹部を壓迫せぬやうに注意する。

(四) 換毛期の注意

換毛期に蕃殖を行つてならないことは既に述べた通りである、兎は此の時期になると健康もすぐれず舉動もにぶくなる。故に飼料も榮養に富み且つ消化の良好なものを選んで與へるやうにするのがよいのである。此の期に毛皮用として屠殺すると適せぬことは言ふまでもない。

(五) 掃除と消毒

掃除と消毒は病に對する豫防の第一である。舍内の換氣、保温、乾燥、飼料の吟味と共に之は大切な仕事である。消毒は少くも年に二―三回行ふ必要がある。特に流行病や、寄生蟲の發生した場合は大掃除をし、クレンオリンを二十倍乃至五十倍の熱湯で溶かした熱液を以て充分に消毒する。

(六) 敷藥の給與

妊兎や育仔中の母兎或は病兎は勿論のことであるが、その他のものでも本道の如き寒冷の地では寒い頃に敷藥を與へる方がよい。但し之をやつて却つて不潔になるやうな怠惰な飼養者は考へものである。敷藥の材料は稻藁か麥藁を一尺位に切つたものがよい。

(七) 身体の手入

アンゴラの様な毛用種では是非共必要なことであるが、普通の品種でも皮毛が著るしく汚れたやうな時は、刷毛のやうなもので靜に摩擦して拭去るがよい。

四、放飼と舍飼

兎の飼ひ方には放飼と舍飼とがある。夏季に兎を晝間だけ移動式に放牧するのはよい方法であるが、晝夜共に放牧するのは考へ物である。晝夜とも放牧する時は、余程設備がよくないと、外敵に襲はれたり、又地下を掘つて兎に逃げられたりする。普通の山野に放牧するとなると捕へるに骨も折れるし、保護が一層困難になる。それで之を試みた人もあるが多くは失敗してゐる。それで本道

の如きは特に舍飼の法によるのが得策である。

五、去勢と肥育

去勢といふのは雌雄兎の生殖腺を取り去ること、その目的は發育を迅速ならしめ、肉量を増し肉質を佳良ならしめる爲であつて、主として雄にのみ行ふ。肥育は急激に肉量を増加し、且つ肉質を改良して美味ならしめると同時に、兎肉の特臭を除く爲行ふものである。之等は肉の販賣を目的とする場合に行はれる方法であるが、本道では肉よりも毛皮を目的とする事が多いので、去勢及び肥育を行つても大した經濟上の利益はない。それは去勢の適期が生後三―四ヶ月で、去勢の創口が治癒する爲多少發育が遅れる、そしてもう二ヶ月程すると屠殺期に達するといふ譯であるから、手数をかけるだけ損といふことになる。しかし、自家用に肉を供して美味ならしめるため、或はその他之を要することがある際の参考として、その要領だけを次に略記して置く。

(一) 去勢法

三ヶ月前後の仔兎が適當である。器具としては小刀の鋭利なものと、麻紐との他に二尺四方位の臺に、四本の棒を四隅に立てたものがあればよい。四本の足を四本の棒に結びつけて置く。即ち仰向けにして、前肢と後肢とを縛つて張付けとし、今度は陰囊の所をよく石鹸で洗つて、アルコールで消毒し、陰囊を出るだけ下へ押し下て右手でナイフを持ち、辜丸を傷けぬやうに皮を切り、辜丸が出たなら、輸精管を注意の麻紐又は絹糸できつく縛り、辜丸を根元から切取る。切口にはヨジウムチンキかオキシフルをつけて消毒する。切口はそのまま差支ない。之で去勢は終つたのである。成るべく午前の暖かい日に温かい所で行ふこと。去勢後は兎を成るべく日當りのよい所に置き飼料の様なものも水分を控へ目にし、濃厚飼料もやゝ分量をへらし、且つ部屋を薄暗くして落つかせる。三日も経つてから普通の飼養に戻す。

(二) 肥育法

去勢したものを四―五日経て、傷口が治つたならば肥育にとりかかる。肥育を行ふには肥育箱を作る。普通の飼育箱でも差支へはないが、肥育中は敷薬を澤山やつて、それを取り換へることをしないから、普通の箱では汚れたりして少々都合が悪い。肥育箱は石油箱の極悪いのでよいから飼育箱を作り(金網の代りに竹の格子で差支ない)前方に南京袋か菴の類を張り廻す。之は光線を避

けて沈靜を保ち、神經作用を少くする爲である。

飼料はなるべく炭水化物(澱粉のやうなもの)の多いものを澤山與へればよい。即ち玉蜀黍の粉末、甘藷を煮たもの、澱粉粉、大豆粉、麩などが適する。一日三回給與、綠飼料は水分の少い禾本科類がよい。又豆腐粉は至極結構なもので、之と麩と半々にして與へるなら上々である。毎回少し不足な位に與へ次回給與に當つて飽食的に食ひ盡す様に仕向ける。普通三週間で肥育を終へる。左にその飼料一例を掲げて参考とする。

○第一週間

朝 煮沸甘藷二〇匁 麩二〇匁 脱脂乳六匁

晝 煮沸玉蜀黍四〇匁

夕 小麦二〇匁 食鹽少量

○第二週間

朝 澱粉粉二〇匁 玉蜀黍粉一〇匁 脱脂乳六匁

晝と夕は第一週に同じ。

○第三週間

朝 煮沸甘藷三〇匁、玉蜀黍粉一〇匁、亞麻仁粉一〇匁、脱脂乳二匁

晝 第二週目と同様

夕 小麦粉と蜀黍玉粉切半のもの七匁

兎の病氣と治療法

一、病氣に對する心得

兎は病氣に甚だ弱いものである。それで成べく注意して病氣に罹ることを未然に防ぐ様にせねばならぬ。兎舎、飼育室、器具類の清潔と消毒、舎内、箱内の保溫、換氣、乾燥、飼料の適當なる給與、適度の蕃殖等、要するに日々の飼養管理に留意するのが何より大切である。消毒藥としてはクレオリンかクレシンの二〇―五〇倍液がよい。

病氣に罹つた兎は、(一)食慾が減ずる。(二)動作が不活潑になる。(三)箱の暗い一隅に頭

を向けて佇む。(四)耳は力なく垂れる。(五)病氣によつては下痢する。(六)眼の光がにぶくなる。(七)皮毛が粗く亂れ、光澤が無くなる。この様な徴候が現はれたならば、注意してどこが悪いかを見定め、それに應ずる様な手當をしてやらなければならぬ。若し傳染病の如きをウツカリしてゐると、他の兎に蔓延して、思ひもかけぬ損失を招くことがあるから油断は禁物である。

二、病氣の種類と其の手當

病氣の種類は随分多い。その主なるもの名を擧げて見ると(一)消化器病 1.急性口内炎 2.鼓脹症(鼓腹症) 3.下痢 4.便秘 5.胃腸炎及び腸加答兒(二)呼吸器病 1.悪性鼻加答兒(鼻詰り・嚏病) 2.寒胃 3.肺炎 4.結核、(三)神経系統 1.痙攣 2.癲癇 (四)泌尿器、生殖器及び乳房 1.赤尿症 2.血尿症 3.微毒 4.腫炎 5.乳房腫脹(五)妊兎の病 1.急性の熱病 2.耳不妊症(脂肪過多症) (六)原生蟲病コキシウム、(七)耳及び眼 1.耳瘡及び中耳炎 2.耳の部分的癩癬 3.結膜炎 4.垂れ耳、5.曲り首、(八)四肢 1.足痛 2.足曲り(骨軟症) (九)毛皮・皮膚及び外部寄生蟲 1.膿腫、2.疥癬 3.輪癬、4.脱毛 5.外部寄生蟲(蚤・虱等)

(十)その他 1.齒 2.爪 3.内部寄生蟲 4.外傷及び骨折 (十一)惡癖 1.食仔癖 2.哺乳拒否 3.食毛癖等がある。しかし、此のやうな小册子でその悉くを解説することは出来ないので多數飼育せられる向は、更に他の書で研究して頂くことにし、茲には眞駒内種畜場米澤技師が最も多く罹る病氣として擧げられた左の十數種に就いて解説して置く。

一、鼻詰り

之は傳染性のもものと感冒から來るものとある。之に罹ると鼻汁が出て來る。樟腦二オンス、ホタール一オンス、ユーカリ樹油二五滴を混合して、油差の小さなもので、一日一二回鼻の中に差込んでやる。又クレオリン十滴、ユーカリ油十滴、オリブ油一オンスの混合劑も有効である。之でも治らないものは他の兎に傳染しない様隔離しなければならぬ。同時に感冒は温かくして、感冒薬を人間に用ひる十分の一乃至十五分の一を服ませる。(此の病氣は不治と云はれてゐるが目下農林省の獸疫調査所で研究の結果血清で完全に治療が出来る様になつたとのことであるから近く拂下が行はれるといふことである。)

二、耳病

疥癬から来る外耳炎、或は微菌又は小ダニ類の寄生等から起る、オリーブ油と石油を等量に混じ
たもの、石炭酸軟膏、クレオリン製剤、タムシ軟膏の如きもので治療する。

三、歯の過度伸長

伸びた歯をヤスリですり、或は適度に切り落とし、又は抜き歯する。

四、肛門周囲炎

牡にもあるが牝に最も多い、多くは一種の微毒で尻腐れとも言はれる。初期のものはリゾール
二%液で洗ひ、醋酸三%液、水銀軟膏、沃度丁幾等で治療する。慢性のものはサルバルサンの注射
以外良法は無いが、高價で引合ない。近來イマミコル液〇・五瓦を二―三日置に腰部兩側交互に
合計四―六回筋肉注射で効くと言はれてゐる、イマミコルは一瓦筒入一ダース五拾錢位である。

五、眼病

結膜炎が多い。五〇倍位の微温硼酸水で一日三―四回洗ひ、硫酸亜鉛を二〇倍にして眼薬を作
り、洗つた後へさしてやる。重症の場合は硝酸銀二五%液をガーゼに浸し、始め二日間は毎日二回

以後は一回づゝ洗滌する。

六、腫瘍

ヨードチンキを塗つて置けば治る。

七、瘰癧

急激に來たものは方法が無い。軽いものはブランデーを等量の水に薄めて三時間毎に小量と與へ
治つた後今までの飼料を適度に變更して與へる。

八、疥癬

鼻端、唇、前額、四肢等にくる。ヒゼンの蟲が原因である。軽いものは硫黄華を擦込むとか、
石油、又はオリーブ油で効があるが更に硫黄華軟膏、或は硫黄華、ホタール等量混合剤を一、軟石
鹼酒精の等量混合液を二の割合で混じたものは一層効がある。處理の前後に必ず手を消毒せねばな
らぬ。(リゾール液の如きものを用ひる。)箱内も消毒の要がある。

九、脱毛症

適度に日光浴をさせること、硫黄華の擦込み、又は硼酸軟膏の塗布を試みるがよい。

十、コクシジウム

仔兎を襲ふ怖るべき病気で、原生蟲と稱する寄生蟲から起る、急性に來るものと慢性に來るものがある。急性のものは大概斃死する。慢性のものは先づ下痢が現はれ、胃腸に炎症を起し、又肝臟を侵される。普通の病状と餘り變りはないが次第に衰弱し好んで綠飼料を食べる様なものは大抵罹病したと見て差支ない。猛烈な傳染病であるから隔離しなければ一腹全部の仔兎がやられてしまふ。本病の徴候を認めたらば、箱その他を五〇倍の石灰乳又は二〇倍のクレオリン熱液を以て消毒する。熱湯消毒も有効である。普通消毒薬では死滅せしめ難いものであるが、幸に乾燥と熱には弱いので、此の武器で征伐する、食器類に至るまで熱湯消毒の要がある。豫防法としては大いに有効であるといふ方法もない。日光浴と運動を充分にし、仔兎の體力を強健にして抵抗力を大ならしめるのを第一とし、次に居室を乾燥に保つことが大切である。其の他常々から生草や野菜類は幾分乾燥して與へ、又過マンガン酸加里の桃色に薄めた液(約十倍)即ち薄いカメレオン水を一日二週毎に一回位の割合で、飼料を練つて與へるとよい。此病氣は離乳から生後三ヶ月位までが最も罹り易く、六ヶ月以上になると殆ど見ないものである。

十一、鼓脹症(鼓腹症)

腹がふくれ下痢を起す病氣である。露のついた草や醗酵した飼料を給せぬ様、又綠飼料を飽食させぬ様に日常注意し、罹病したものには胃腸薬を人間の十五分の一位の量だけ與へる。下痢にはゲンノシヨウコをそのまゝ、或は濃く煎じたものを與へるとよい。

十二、涎病(口内炎)

離乳後間もない二―三ヶ月位の仔兎に多い病氣で、消化器の整はぬ中に不適當な飼料を與へることに原因することが多い。病兎にはその原因を除き、五〇倍位の明礬水で口を洗つてやり、過マンガン酸加里を薄桃色になる程度(約五十倍)に溶かした水を飲ませる。重症のものは一時絶食し、胃腸薬を服ませる。

家兎の處理

兎は生體のまゝ之を販賣する場合もあるが自家加工によつて、毛皮と肉とを別々に處理する方が

有利な場合が多いし、又毛皮や肉を自家用に供する場合もあるので、屠殺法、剥皮法、皮の練し方を一通心得て置く必要がある。北大の澤山博士は兔毛皮處理に關する講習會に於て次の如く我養兔家に向つて指針を垂教するところがあつた。

「近年新しい畜産業に、毛皮動物養殖事業の勃興を見るに至つたことは、洋の東西を通じて同様であるが、其原因は天産毛皮の缺乏を如實に立證するもので、我が國に於ても洋裝化の普及と、毛皮の需要増加は、いよ／＼養兔業の隆盛を促すものと考へるが、天惠的毛皮産業の適地である

本道の如きは、特殊産業として特に考慮を要するものがあると思ふ。

彼の副業養兔が幾度か興らんとして、遂に果さなかつた原因は多々あると思ふが、肉の食用化と毛皮の自家消化を閑却して、徒らに市場に於て商品化を企てたことが失敗の原因であると考へる本道の如き寒冷地帯にあつては、防寒毛皮を必要とするは言ふまでもなく、兔毛皮の自家加工は此の意味に於ても本道農家に普及せしめ、生産過剰による兔毛皮市場の暴落に備へ、以て養兔經濟の堅實なる向上を期するためにも、又不良毛皮の處分法としての自家加工は、養兔業の獎勵と不可分の必須條件である。

即ち兔毛皮の實用化により、羊毛の消費節約を圖ることゝもなつて、兔毛皮の自家利用は實に有意義となつてくる。しかも、實用毛皮の加工は極めて簡單容易で、窮迫せる農家の消費節約を助ける一副業として好適なものである。』

と、以下兔毛皮の自家加工について解説する。

一、兔の屠殺法

イ、打撲法

左手で兔の兩耳を握り、顔を左に、尻を右に位置させ、心持ち兔の前軀を左手の耳で吊るし上げる様にし、右手で金槌又は出刃の背で後頭を打つ、すると兔は氣絶するから、直に後肢を縛つて吊下げ肉切包丁で顎から咽喉にかけて皮を縦に一寸餘り切り開き、内部に見える頸動脈を切る。此の時血が忽ち奔出するから毛皮に血がつかない様に注意しなければならぬ。放血は必ず屠殺と同時に行はないと固まつてしまつて、充分に血が出ないから、肉味を損じ且つ腐敗し易くなる。放血が終つたら直に下腹部を上から下へ強く段々に押し撫で、尿を搾り出す。

ロ、脱臼法

之は多数の兎を屠殺する場合に用ひられるのであるが、腕力と熟練を要するので、農家の副業養兎では、前法によればよいと思ふが、参考の爲にその要領を記すと、兎の腿又は腰部を左手で持ち右手で兎の頭部を持ち、両手で、力を籠めて兎の體を引延ばし乍ら頸部を仰向けに強く曲げる。かうすると頸動脈が切斷して暫時で死んでしまふ。此の方法は放血せずとも、血液は咽喉部に溜つて剥皮の際ナイフを入れて完全に放血出来るものである。熟練すると毛皮を汚す心配もなく、能率も上るから良い方法である。

ハ、屠殺上の注意

(一) 屠殺の時期は本道では十一月中旬から三月中旬頃がよい。

(二) 原則として次の様な兎は屠殺しないこと。

1. 生體六百匁以下のもの
2. 生體六百匁以上でも、生後六ヶ月を経過せぬもの
3. 生後六ヶ月を経過し、生體六百匁以上のものでも、毛換り遅く毛の生え揃はぬもの

4. 妊娠中のもの、及び分娩後未だ毛並が充分に生え揃はぬもの
5. 病氣をして抜毛せるもの、又は病氣中のもの

ニ、剥皮法

剥皮の方法には「丸剥」と「板剥」との二法がある。普通は板剥が多いが、多数のものを扱ふには丸剥が便利である。

イ、板剥の場合

兩後肢を縛つて逆に吊るし、飛節の上部を圓く皮を切り、肢の内側を縦に肛門に向つて切目を入れ、肛門及び陰部は圓く其の周圍に切り目を入れる、次いで陰部又は肛門に切り目を入れた所から腹部の正中の皮を切り開く。此の際刀に力を入れすぎて腹壁を破り、内臓を破らぬ様注意せねばならぬ。次に前肢の膝の部分の皮膚を圓く切り、内側の皮膚の軟かい部分の正中に切り目を入れ、體の正中線と直角に切り開く。然る後、先に切り目を入れて置いた後肢から、だん／＼剥皮を始め、出来るだけ亦物を用ひず皮を引張る様にして剥げば、亦物は最初と肛門の周圍を剥ぐ際と、肩の部分

を縛く際と、兩方の頸部を縛く時の外必要がない。

ロ、圓剝の場合

圓剝の方法は、矢張兩方の飛節の上方、アヒレス腱の所へ穴をあけ、之に鉤をかけて逆に吊るし飛節の上方一寸位の所の皮膚へ圓く切り目を入、肛門陰部の所までは前法同様に縛き、尾根を切り離した後、前肢の第二關節以下を皮付のまゝ切り去り、尻の方から頭の方へ向け、前法同様なるべく力を用ひずに圓く剝く。剝終つて後、正中線を切り開き、以下板剝の場合と同様に處理する。

皮下の脂肪及肉は、出来るだけ肉の方へ附着せしめ、皮にはなるべく之等のものを着けないやうにする。皮に若し亦物で傷をつけると賣物にならないから、充分注意することである。頭の邊を縛ぐには面倒であるが、庖丁を軽く横に拂ふ程度に肉と皮との間を切り乍ら、漸次皮を引張ると、やがて唇まで行つて完全に剝終る。

三、乾皮の作り方

縛取つた生皮は、直に腹部の縫合線に沿うて切り、一枚の平皮とし、その内面に附着してゐる肉

や脂肪を、鈍刀又は竹筥で皮を傷けぬ様に丁寧に剝取り、更に耳と尾を切り取り、外側の毛や内側の肌血や汚物が附いて居れば、綺麗に水洗ひする。

次に幅一尺餘、長さ五―六尺、厚さ三―四分の適當な張板に餘り引張らぬ様にして、大體原形を基準とし、縦二とすれば横幅一位の割合の長方形とし、毛面を板の方につけ、内面を外にして、なるべく皮の端しに一寸位置に七分釘で打留て乾燥する。此の際の注意事項を列挙すると。

- 1. 皮は餘り張過ぎぬこと
- 2. 皮に皺の出來ぬ様注意すること。



釘は一吋置き位で四十本
乃至五十本を要する。

3. 皮に厚薄の出来ぬ様にする事
4. 皮の端しの出入をなくすること
5. 釘は出来るだけ毛皮の端に打つこと
6. 釘打ちの順序は圖の如くにする成績がよい。
7. 乾燥は日陰乾燥法に従ふこと、急激に火力乾燥をなしたものは油焼して皮の價値がない。
8. 張板から毛皮を取る時は、皮の厚い頭及び肢部が充分乾いた時、釘を丁寧に抜きとる。粗末にして皮を傷けると皮の價値が落ちる。
9. 乾燥は充分にせねばならぬ。不充分であると輸送中に蒸れ、或は腐敗を來す。寒い時期には一寸見た所乾いてゐる様に見えても不充分な場合が多く、殊に頭部の乾かぬ場合があつて、測の損害を受けることがあるから、呉々も注意を要する。

乾燥は毛と毛を合せその間に粉末ナフタリンを僅かづゝ撒布して虫害を防ぎ保存する。

四、乾皮の鞣し方

兎の毛皮を鞣すには、色々の方法があるが其中最も普通に行はれ、且つやさしく出来る明礬鞣法だけを茲に記して置く。

第一、準備作業

(一) 水浸又は戻し

生皮なら其の儘鞣されるが、乾皮は一旦水に浸して生皮の状態に引戻す。水浸の前には毛皮の塵をよく拂つた上、水一斗に對し約五匁内外の硼砂を加へた溶液に浸漬する。之は毛皮を傷つける憂なく軟かにする爲である。

水浸の時間は冬期は十二時間乃至二十四時間、夏期は三―四時間で十分である。

(二) 裏漉き

之は毛皮の肉面に附着してゐる薄皮及び脂肪等を除去する爲に行ふ作業でありて、普通は蒲鋒板を用ひ、此の板の上に、毛皮の肉面を上にし、指爪で毛皮の後端、即ち臀部から一二寸位、薄皮即ち皮下結締織を剝がし、次いで鉈又は鈍刀或は竹篋等で、前方に向つて擦り削る様にして毛皮の肉面に附着してゐる脂肪肉、又結締織等を除去する。これは出来るだけよく除かないと鞣しがよく出

来ない。此の作業で注意を要するのは、頭の方から臀部の方へ向つて漉く時は、よく薄皮が剥げないので、臀部から頭部へ逆に行ふことが肝要である。

(三) 脱脂

次には、豫め調製して置いた石鹼液中に漬けて脱脂する。之に用ひる石鹼はマルセル石鹼又は極上等の洗濯石鹼を用ひねばならぬ。或は又石鹼と等量の洗濯ソーダを混合するのもよい。その割合は水一升に對し石鹼一匁乃至二匁、洗濯ソーダ一匁位でよい。水の温度は攝氏十四—十五度位がよく之より冷たくても、温かくてもよろしくない。

僅か數枚の兎毛皮であれば、洗濯する時の様に、丁寧に揉み洗へばよい。かくして石鹼液で十分脱脂したものを再び取り出して十分に清水で洗ひ、完全に石鹼液を洗ひ落さねばならぬ。而して最後に華氏六〇度内外の水で數回洗へば尙結構である。

第二、鞣し作業

最も普通の方法である明礬鞣法について説く。先づ第一に濃厚な原液を造る。その藥品及び調割合は

明礬粉末

三〇〇匁

食鹽

一〇〇匁

温湯

六〇〇匁

右を明礬一〇に對して食鹽五の割合で行ふ人もあるが、本邦では食鹽が少い方がよいと言はれてゐる。此の溶液が一貫匁あると、兎毛皮約三十枚を鞣すに充分である、それで普通家庭用に用ひる際には、原料をこの割合で少く作ればよい。

右の原液が出来たならば之を三回に分けて用ひる。最初は裏漉しの終了した皮を、樽又は桶の中に入れ、清い水を皮が悠悠浮ぶ程度に入れて、然る後三分の一の原液を此の中へ注加する。此の際水が餘り多過ぎると液の濃さを淡くする心配がある。(比重計があれば六度から十度の濃度にすればよい。)

かくして時々毛皮を引繰返し、液を攪ませ、一晝夜經つと此の液に再び原液の三分の一を加へて前同様時々反轉移動する。(此の液の濃度は十二度から十七度。)

第三日目には更に残つた三分の一の原液を全部注加して、前日同様時々毛皮を反轉し、液を攪拌する。(濃度二十度から二十四度)かようにして後、皮の鞣の成否を調べる、即ち皮を手で水を絞る様にして見ると、白色となつて丁度濡れた日本紙を搾つたやうになると十分鞣された譯である

明礬法には他にも別法があるが省略する。

第三、仕上作業

(一) 給 濕

鞣液から取り出した毛皮は、前記の方法で乾かした後、ブラツシユで肉面に濕氣を與へる。毛皮の背部に當る部分は、他の部分より厚いから、一層多く濕氣を與へねばならない。次いで毛皮の肉面と肉面とを合はせて重ねるか、又は肉の面を内側にして二つに折り疊み、布、紙、南京袋等で包んで箱の中に入れ、適當の重石を置いて數時間放置する。そして之を二三回繰返すのである。かうすれば十分に濕氣が内部に滲透する。そして最後の給濕は背部に當る部分のみに行ふがよい。此の際濕氣を含む量が不足であると軟かくならず、又反對に過度であると仕上後乾皮の様になるから、その程度にはどうしても經驗を要するものである。

(二) 篋 掛

前記の仕事が終ると、篋臺の上で篋掛を行ふ。特別の設備が無いならば、洗濯板又は柱或は適當な木片で皮を擦り付け、又は莖の上で皮を踏みつける。その後裏麩の時用ひたと同様の道具で、

皮の肉面の粗皮を削り去るのである。

篋掛の方法は、始め皮の中線部を前下方に向けて十分に行ひ、次で左右下方に向ふ。柔軟になれば反對の端を同一の方法で行ふ。而して篋は成るべく平等に、内面を押し延ばすやうな氣持で、出来るだけ敏速に行ふ。かうすると、摩擦熱が高く、毛皮の内外の濕氣の發散を平等にして此の操作を良好ならしめる。此際注意すべきは俗にいふ袋を作らぬことである。

之が終つたならば、輕石で内面を擦つて平にする。

(三) 光澤出し

毛の汚れを脱する爲、オキシフル液を毛皮に塗り、乾いた布で數回毛並に摩擦する。又毛部に石鹼液を薄く塗り、濡た布で石鹼を拭去つてもよい。光澤をつけるには次の配合の艶出し液を塗る。

1. 酒精一〇〇瓦、サンダーラツク八瓦

2. グリセリン一〇瓦、卵黄八瓦、セリシン五瓦、棉密油五瓦

前者は主に白色毛皮に用ひられる。艶出しを行ふには掌に液を少量つけ、毛の表面に數回毛並に摩擦し、適當の光澤が出るまで行ふ。

兎肉の調理法・貯藏法

毛皮をとつた後の兎肉は販賣出来るものもあらうが、又自家用とする場合も多いのであるから、此の調理法、貯藏法も一通り知つて置く必要がある。次にその二三を記して見よう。

一、調理法

- (一) 焼肉 諸種の調味料を塗つて金網の上で焼くのである。材料としては背肉又は股肉、醬油、味淋、味噌、片栗粉等を用ひる。照焼は魚の場合と同様二―三分の厚さに切り竹串又は金串に刺、醬油、砂糖、片栗粉を以て作った掛汁をかけつゝ焼く。又味噌焼と同様にして酒粕焼もうまい。
- (二) 刺身 背肉を熱湯中で二―三分間煮て後薄片となし別に作つたツマ(添菜)と共に食ふ。
- (三) 汁物及び煮物 兎肉を吸物にするには兎肉を少し厚切のそぎ身に切り、ダシを作り、煮立て

た時に兎肉を入れ、あくをとつて味付し、三ツ葉を少し放し、碗に盛合はせ、汁を入れ、そぎ柚子を吸口とする。また兎肉は味噌汁、薩摩汁などにも適する。

大和煮は腿肉を食鹽、硝石、胡椒の混合物と混じ、甕に詰めて一夜放置した後、肉を水洗し、筥に入れて煮ること十五分間位を経て醬油、昆布、鰹節、味淋、砂糖等を混じて作つた調味液に入れて罐詰とする。

(四) フライ 兎一頭分につき鶏卵一個、メリケン粉コップ半杯、牛乳同上、食鹽茶匙四分の一の割合で衣を造る。先づ鶏卵を掻きまぜ、牛乳及び食鹽を加へ、最後にメリケン粉を加へて充分に練る。次に兎を濕つた布で拭ひ、適當の大きさに切り、十分に衣をかけ、脂肪を溶かしてある熱したフライ鍋に入れて加熱し、一樣に褐色になつたのを度とし、新聞紙又は適宜の器に取り出して油を切り、濕つた皿にパーセリを添へて食卓に並べる。

二、貯藏法

(一) 燻肉 豚の燻肉と同様大なる腿肉をとり、食鹽を充分に塗布して二―三日堆積し胡椒

山葵、醬油、硝石、砂糖等を以て作つた液汁中に一―二週間浸し、後之を取り出して四斗樽を逆さにし、その上部に肉片を吊り下げ、下方で櫻、櫛のやうな木片、鉋屑等を燻煙すること五―七日で作り上げる。

(二) 糠漬法 米糠四升、鹽一升の割で混ぜたものに水を加へ、稍硬い程度に練り、所謂糠味噌を造る、肉は一斤内外の適度の大きさとし、一日間絞にかけ、布で包み、前記の糠味噌の中に漬込み、隙間のない様に叩きつけて置く、容器は甕か樽がよい。永く置く場合は目張をして冷所に保存する。調理は生肉と全く同一でよい。味は漬てから二ヶ月目が最もよい。尙絞の方法は臺上に肉を適宜に積み重ねその上に重石をすればよい。

(三) 味噌漬法 肉を適當の大きさに切り一日位の絞にする、味噌一貫匁に對し砂糖百五十匁焼酎又は味噌三匁―一合位、生姜の汁とか辛子、山椒のやうな香味料を適宜加へて〇鉢で十分にする絞のすんだ肉は一寸微温で洗ひ、味噌にくるみ空氣に觸れぬ様味噌と交互に層にして甕につけ、中蓋をあて、重石をする、後目張して床下などの涼しい風通しのよい所へ置く。味噌一貫匁で肉二貫匁位漬得る、調理は其まゝ焼いても又良く煮てもよろしい。

(四) 醬油漬法 生肉を一斤位の大きさに切り、煮沸し、之を醬油の中に漬けて保存する、肉は煮た場合血抜きが出来、且殺菌されてゐるから、醬油の腐らぬ程度に保存される。此の方法は夏季でも手軽に出来る。調理は味噌漬と同様である、又生肉のまゝ絞が終ると同時に漬る方法もある。

附 録

アンゴラ兎に就いて

一、アンゴラ兎に對する誤れる世評

アンゴラ兎は其の毛を刈つて、之を毛絲、毛織物其他各種の羊毛使用の途に、羊毛よりも高級品として利用されるものである。此のアンゴラ種については、一時誤つた世評があり、指導當局も相當之をインチキ視して獎勵を手控えたものである。その原因はアンゴラ兎の健康を憂慮されたこと、従來生産兎毛の販路が決定しなかつたこと、種兎が餘りに高價であつたこと等にあつたのである。然るに漸次之が飼養の經驗も積み、生産兎毛は鐘紡の買上げ開始と、海外輸出に適確な市場を認められたこと、並びに種兎の價格も漸次低落して來たこと等によつて、農林省に於てもやうやく態度を改め、之を獎勵するやうな機運に向つて來た爲、誤られた世評も茲に是正せられて、之が飼

養者も増加するに至つた。

しかし、之を農家の副業として見る時は、飼養管理に手数を要すること、種兎の價が未だ高價であること、育仔に假母兎を要することなどに於て、直に之を獎勵し難い點がある。それで道廳に於ても、之を都市又は都市附近の郊外町村に限つて獎勵してゐる様な次第で、將來大いに有望な品種ではあるが、本書に於ても之を本文に入れず、わざと附録として參考に供することとした次第である。

二、アンゴラ種についての解説

1. 來歴 本種の起原は小亞細亞説（アンゴラ又はトロイ）、各地出現説、英人將來説など種々あつて定かでない。しかし、現在見る如き品種は佛蘭西で作出され、英國で更に改良を加へられたといふことは確實で、それから近年加奈陀及び米國へ輸入したものである。

2. 特徴 本種は普通の兎と比べて、著るしく毛が長い。そして其の質が絹糸狀に柔軟繊細で、且光澤がある。又被毛がフワリとしてゐるので一見大きい、毛を刈れば體格は中等大であること

が判る。耳は短目で、四肢は長い、毛色には白・黒・青・朽葉・灰等の五種であるが、産業的に重視されるのは白色種である。眼は白色種は紅色であるが、他は其體色に準ずる。爪は白色種は淡紅色、他は同じく體色に倣ふ。

佛蘭西系は英國系に比して一般に體格が大で且敏活強健であり、顔の形は普通の兎と變らない。毛長四―五寸で、毛質は粗悪、細毛一〇に對して直毛が四位混生してゐる。英吉利系は體重七百匁内外で、非常に温和であるが、體質は佛國系に比して幾分劣る。顔の形は狹に似て兩耳の間(前頸部)の毛が長く、「定九郎」の様な風である。毛長八寸内外に達し、刈取後の伸長も速かである。直毛の混生率は佛國系の十分の一位である。加奈陀系は英佛兩系の雜種で、その毛質は寧ろ佛蘭西系に近く粗悪なものが多い。

其他我が國で販賣されるものの中には、本邦白色種から往々生ずる長毛兎の仔兎をアンゴラ兎と稱して賣付けるものがあるが、二三ヶ月の仔兎では區別がつかぬから、仔兎を買ふのは危険である。尙ほ、外國から輸入するものの中にも、アンゴラ種の牡を他の白色牝兎に交配した雜種を見ることがある。雜種兎は殆ど直毛のみで全然紡織に用ひられない。それで本種の購入に當つては、信用

ある種兎場から、確實な血統證明書附の純英國産種兎で、且つ六ヶ月以上の成兎を買ふやうにしなければならぬ。

3. 性状 性質が温順で體質は中等、濕氣を甚だしく嫌ふ。蕃殖は生後六―七月を経て充分に體力が充實してから行ふ必要がある。一年に四―五回分娩し、一回に四―六頭を産む。

4. 用途 毛を紡いで種々の衣服、裝身具等を作る。アンゴラ兎毛の製品は、普通毛織物の半分以上軽く、保温力があつて、しかも濕氣に染まないから、病人の肌衣を作るに貴ばれる。又服地、帽子、下着、毛絲類、フェルト製品その他に年々その需要を増すばかりでなく、細羊毛、絹糸、人造絹糸或ひは綿糸など、混合加工され、その製品の用途は益々擴大しつゝあるから、大いに有望な品種であることが言へる。

三、アンゴラ兎の飼ひ方

(一) 飼料に就いて

普通の兎と大した變りはないが、唯毛生に必要な蛋白質に富む良い飼料を多くして與へる要があ

る。野草でもクローバーやおはばこの様な消化し易いものが適當である。又他の兎よりも神経質で同一飼料には飽き易い傾きがあるから、適當に變化せしめることが大切である。飼料中に肝油を少量混じてやることは健康を助ける。又飲料水に極めて少量の沃度加里を含ませてやるのがよいと言はれてゐる。

(二) 繁殖について

交配についての注意も普通の兎と大して異なるところは無いが、陰部附近の毛を刈つてやること並びに一度種付したものは、受胎の有無に自信を持たなくとも、三―四日後に再交配を試みないことである。分娩後、哺乳期間を普通の兎より長くする必要がある爲(仔兎の健康上)繁殖回数が少くなる。それで之を補ふ爲には假母兎に仔兎を委託して、早交け法を行ふのが普通である。尙、アンゴラの様子に數の少ないものは、近親繁殖の爲に體質が繊弱となり、繁殖力も減じ、体型も漸次矮小化して収毛も減する傾向にあるから、出来る限り普通の兎よりも近親繁殖を避ける様にせねばならぬ

(三) 飼育箱について

被毛の汚染を防止する爲に、糞尿を箱内に止めず、直ちに落下する様に工夫しなければならない

それで床は是非五分目金網か、三―四分目の板の竇の子張りにせねばならぬ。産室の床は金網にせず、板の竇の子張りにする。冬季は下から吹き上げる風の爲、感冒に侵され易いから、之を防ぐ工夫が要る。

(四) 日常の毛の手入れ

アンゴラ兎の毛は軟かで纏れ易いが、纏れたり汚れたりすると毛の値段がズツト落ちるから、生後一―二ヶ月して、毛が一―寸五分乃至二寸に達する頃から、ブラシや櫛で少くも一週間二回、理想的に言へば隔日位に梳いてやらねばならぬ。

毛を梳くには、毛の短いものや仔兎は、膝にのせても出来るが、普通のものは幅七―八寸、長さ一尺、高さ三尺位の臺に載せて手入れをするのである。ブラシは常に毛の表面と平行して使ひ、毛の生え際から先端まで眞直に、初めは毛の生えてゐる方向に、次は逆に梳き上げる。先が少しでも纏れてゐると、ブラシが支るから、必要に応じて櫛や指を以て、毛を分け乍ら氣長に纏れをといて行く。

(五) 毛の刈り方

毛は伸びるに任せると、六一七寸にも達するが、實用上からは紡毛上必要な長さ、即ち三寸位になつたら剪毛するがよい。生後三四ヶ月で第一回剪毛が出来る。豫め目方を量つた箱を三種類用意し、刈取つた毛は上等な毛、下等な毛、纏れた毛と品質別に此の三種の箱に入れる。貯へて置く場合には必ずナフタリンを入れて置く。

毎年三回刈取る。生後三―四年もすると、毛は次第に粗剛になるから淘汰する。淘汰する時は毛を刈らずに毛皮を採る。毛は一年に牝牡とも平均七十匁位の收毛量がある。夏季は二―三分刈でよいが、冬期は短く刈つて感胃を引かれては困るから五分刈位にする。雌兎の腹部の毛は残して置かねばならぬ。手入れをした後、櫛で背の毛を頸部から尾にかけて一線に分け、之に添ふ様に背から側腹を刈り、次第に鋏を深く進めて下腹部を刈る。それから臀、兩腿、兩後肢、尾、胸、前肢の順に刈る。二寸位の長さの毛は二等品、四肢の短い毛は三等品以下に取扱はれる。

兎毛は時に値段の高低があるが、十匁の値段が、三吋半(三寸)以上の特等品一圓位、三吋(二寸五分)の一等品が七十錢位、二吋(一寸七分)の二等品が四十五錢位、一吋(八分餘)の四等品が三十錢から三十八錢位。柳毛が三十四錢から四十六錢位、フェルトが二十錢から三十四錢位に取

引されてゐる。それで一頭から平均年參圓位の兎毛收益が擧がる。

レッキス兎に就いて

レッキス種も俗にいふ高級種で、アンゴラ種同様、將來はとも角現在には農家の副業向きとは言はれない。種兎の値段が高い割合に、まだ毛皮の價が低くて引合はない憾がある。今の所普通の兎よりも多少高價に賣れるといふ位の程度である。

飼養法に就いては、大体普通の兎に準じてよいのであるが、本邦に行はれてゐるものは蕃殖率が低く、仔兎も脆弱であるから、假母兎の利用と特別細心の飼養を施さねばならぬ。尙俚病に罹り易いので、それを防ぐ爲に、日光浴と運動をよくさせること、ビタミンDとカルシウムの給與に氣をつけること等の注意が要る。良質な鱈肝油を茶匙一杯づつ、毎週二回、練餌の中に加へてやると効果がある。

「兎の品種に就いて」の項に書いて置いた通り、レッキス類は品種が極めて多い。レッキスといふ

のはラテン語で「王者」を意味するが、今は短毛種といふ語を現はしてゐる。佛蘭西に於て此の一種であるカスター・レッキス種が固定されて以來、今は各種のレッキスの新種が作出されてゐる。普通の兎毛皮は、高級野獸毛皮の代用とするために、毛を短く刈り、或ひは染色しなければならぬのであるが、之は作業に經費を要し、且つ地質を損傷して耐久力を減ずるものである。ところが、レッキス毛皮は此のやうな作業を要しないのが長所である。更に同じ天然色にしても普通兎毛皮は日光に逢ふと褪色しやすいが、レッキス兎毛皮は容易に色が褪めない。而して本種は凡ての所要の色澤のものを作出し得るので、大いに將來があるものと見られてゐる。本種は種類が多いため、二三の代表的品種のみについて次に解説して置く。

カスター・レッキス種（カワウソ兎）

1. 來歴——一九一九年佛國でメルヂアンの變種から固定に着手し、數年の後に完成されたものである。我が國には一九二九年始めて輸入された。
2. 特徴——普通の兎に比して毛が非常に短く、絹のやうに繊細柔軟で光澤がある。皮膚から直立

して密生するので、一見ビロードのやうな觀がある。被毛は背部は褐色で、腹部は白色。毛長は四五分、表面は褐色だが、根元の色は藍色である。毛の最良期は生後一年半、眼は褐色、爪も亦褐色である。体重は九百匁乃至一貫二百匁位。

3. 性状——性質は溫和であるが、割合活潑である。體質は強い方で蕃殖力も相當である。レッキス類は凡て給餌にビタミンDを含むものを缺いてはならぬ。
4. 用途——勿論毛皮用として需要のあるものであるが、鼬、貂、狐などよりも寧ろ高級とされる場合があるので、頗る有望な品種と見られてゐる。

ハバナ・レッキス（ラッコ兎）

1. 來歴——本種はハバナ種とカスター・レッキス種との交配によつて成立した新種である。我が國へは主として英、加、米、佛の諸國から輸入されてゐるが、英國産のものが最も優良とされてゐる。
2. 特徴——獵虎のやうな濃チョコレート色乃至は肝臟褐色で、その色は腹部から四肢の先端に至る。

るまで行亘つてゐる。但し根元は眞珠灰色である。毛質は絹糸様の手觸りがあり、その毛の長さは四―五分。ビロードの様に直立密生してゐる。体型は充實した丸型で、眼も爪も褐色である。体重は八百匁内外が普通である。

3. 性状―至極溫和従順であり、体質も強健で、幼児の斃死率も少い。哺乳が巧であつて殆ど假母兔の必要も見ない。

4. 用途―海狸・黄鼬などの代用品として用ひられるが、その色澤及び毛質の點で之等に匹敵するから、その用途は廣般であり、諸外國では需要も亦頗る多い。尙本種は流行に餘り關しないチョコレイト色であり、混色がなく、粗毛が少いこと、肉も美味な點などで大いに有望と認められてゐる。

フリユー・レッキス種

1. 來歴―本種はカスター・レッキスと白耳義原産のフリユー・ベレン種とを交配して作出した新品種である。我が國は作出國たる英國から輸入してゐる。

2. 特徴及び性状―中型種であつて、毛色は全体を通じて鼠色がかつた、青色毛質は他のレッキス類と同様である。眼及び爪は共に体色と同様であるが、眼は褐色であつても缺點はない。性質は溫順で、体質も健か、蕃殖力も相當大である。
3. 用途―毛皮用として貴重な野獸毛皮に模造される外、婦人子供用の衣服、裝身材料として固定した需要があり、此の點で頗る堅實性に富んだ有望品種である。

昭和十年四月二十五日印刷
昭和十年四月三十日發行

定價金參拾錢

著者 北海道農業教育研究會

札幌市外圓山五丁目

發行者 湯淺英五郎

札幌市外苗穂五〇番地

印刷者 田中幸司

發行所

札幌市外圓山五丁目
振替口座小樽七〇二二番

淳文書院

發賣所

札幌市南二條西十二丁目
振替口座小樽二七〇七番

北海出版社

本道農家青年必携の好伴侶！

農事實行組合備付圖書として好評！

北海道農業教育研究會編

北海道 青年農業叢書

總フリカナ附 四六版九〇頁内外 各編共 金參拾錢 送料二錢

本叢書の特色

一、本叢書は現代の進歩した新しい農業、間に合ふ農業を研究して貰ふ爲に生れたのである
 一、内容は現代指導者の權威に校訂を乞ひ、むつかしい理論を極めてやさしくこなしてある
 一、説いてある事は一々本道の實情に基いて居

り、決して内地府縣の模倣でない。
 一、必要な分だけ選んで買へる様に一事項一冊主義であるから經濟的である。
 一、總振カナ附で誰でも讀める様にしてある
 一、力めて農事試験場、種畜場、その他の試験成績を基として記述を進めてある。

第一編	馬 鈴 薯	金 參 拾 錢
第二編	地力の維持増進	金 參 拾 錢
第三編	綿羊と其の飼方	金 參 拾 錢
第四編	合理的な小麥の栽培法	金 參 拾 錢
第五編	農業の多角的經營	金 參 拾 錢
第六編	堆肥と綠肥	金 參 拾 錢
第七編	農業の合理化	金 參 拾 錢
第八編	本道に 適する 兔と其の飼ひ方	金 參 拾 錢
第九編	近 刊 豫 告	
第十編	北海道農家の副業一 本道の 特産物 甜 菜	第十一編 種實用 玉 蜀 黍 飼料用 (以下續々刊行)

送料各金二錢

發行所

札幌市外圓山北中通五丁目
振替口座 小樽 七〇二二番

淳文書院

北海道農事試験場御指導
北海道農業教育研究會編

高等 農業實習帳

第一學年用
第二學年用
一組二冊送料共
金參拾四錢

立案・記帳・勘定

我が國農業界の先覺者である、山崎延吉氏は、『農業經營の最も大切な點は、どんなに面倒でも立案と記帳と勘定とを缺かさぬことである』と叫んで居られる。
今年はどういふ風に我が家の農業をやらうかと、綿密な設計を立てる。それに従つて毎月經營を進めその経過一切を記帳する。そして最後にその記帳に基いて勘定し、此の勘定と、記帳した一年の経過とを反省して、更に次の年の設計を立てるといふ風にやらなくては、何時迄たつても農業は間に合はないで暮す様になる。

本書は此の練習の爲に、高等科の生徒に用ひさせやうとして作つたものであるが、青年諸君の練習用として全く適してゐる。いきなり六つかしい帳簿にぶつかつたさて、自分ひとりで仲々なされぬ。
本書は各作物毎に選種法・播種期・播種法・畦幅・株間・播種量・基肥・追肥・中耕除草・收穫期諸注意等につき一々農事試験場の標準が示され之を參考として記帳式農業が出来る様に仕組んである。
本書を用ひて色々計劃し、是非記帳式農業をやつて見られることを切にお勧めする。注文は今直ぐ振替で。

第一學年用目次

本書使用上の注意
栽培設計書
作業豫定表
大 根
馬 鈴 薯
大 麥 (裸麥)
小 麥
燕 麥
稻 (一) (移植)
稻 (二) (直播)
大 豆 (小豆)
菜 豆
結球白菜 (體菜)
胡 瓜

南 瓜
苺
葡 萄
實習補充欄
各種試驗成績表
牛
馬
豚
家畜飼育日誌
作物の配當及輪作式の例
飼料可消化成分と澱粉價
農用藥劑の處方と適用
殺菌劑殺蟲劑混用適否圖
肥料成分表
肥料混合適否圖
農家中行事

備忘録
財産台帳
農具台帳
收穫物一覽表
出納録
收支決算表

第二學年用目次

略

第二學年用には茄・蕃茄・甘藍・玉葱・菜種・牛蒡・胡蘿蔔・豌豆・苹果・梨・葱・アスパラガス・玉蜀黍・西瓜・越瓜・蕎麥・亞麻・甜菜・除蟲菊・薄荷鶏等が記載してある。

發行所

札幌市外圓山五丁目
振替口座小樽七〇二三番

淳文書院

北海道農事試験場編纂

會員を募る！

北 農

會費一箇年前納
金 壹 圓

- 一、本誌は北海道農事試験場の試験成績を發表す
- 一、本誌は毎月の農家行事に就て注意事項を記載す
- 一、本誌は北海道農事試験場関係者の研究を編輯す
- 一、本誌は農業各般の講座を設け毎月連續掲載す
- 一、本誌は會員の農事に關する質疑に應答す
- 一、本誌は其の他抄録、時報、雜録を掲げ參考に供す

申込所 札幌郡琴似村 北海道農事試験場内 北

農 會

振替小樽一二三八七番

終

